

自己点検評価シート

4-1	教育内容・方法・成果 (教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)	
	学 部	1~10
	研究科	11~20
4-2	教育内容・方法・成果 (教育課程・教育内容)	
	学 部	21~30
	研究科	31~40
4-3	教育内容・方法・成果 (教育方法)	
	学 部	41~50
	研究科	51~60
4-4	教育内容・方法・成果 (成果)	
	学 部	61~70
	研究科	71~80
8	研究活動	
	学 部	81~85
	研究科	86~90
9	社会連携・社会貢献	
	学 部	91~95
	研究科	96~100

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

人文学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針との整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学部の学位授与の方針について、卒業時まで学生に身に付けるべき能力を明らかにする。	ディプロマポリシーが改正されること
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針を引き続き明示する	公表の方法
中項目(3)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が効果的に周知されている	周知方法が見直されていること
中項目(4)	学位授与の方針及び教育課程の編成・実施方針が定期的に検証されている	定期的な検証の実施とその結果の公表

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学部として、学位授与方針をさらに明確化するための取り組みは行われていない。従って、到達目標に掲げているディプロマポリシーの改正への取り組みも行われていない。	
中項目(2)	平成26年度に引き続き、教育課程の編成・実施方針は『学修ガイド』及び本学ウェブサイトを通じて明示している。しかしながら、他の公表方法についての検討は行われていない。	
中項目(3)	平成26年度に引き続き、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は本学ウェブサイトを通じて大学構成員に周知するとともに、社会に公表している。また、オープンキャンパスや新入生ガイダンスといった機会を利用して学生への周知も行っている。しかしながら、周知方法の見直しについての検討は行われていない。	
中項目(4)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定期的に検証する体制はまだ整えられていない。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

法学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学習成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標と学位授与方針との整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後とも、継続して明示する	教育目標と学位授与方針の明示
中項目(2)	今後とも、継続して明示する。	教育課程の編成・実施方針を明示
中項目(3)	今後とも、継続して周知または公表する。	周知徹底と公表
中項目(4)	今後とも、継続して検証する。	カリキュラム委員会における定期的な検証

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	法学部は、従来より明示しており、平成27年度においても継続している。	福岡大学公式ホームページ、福岡大学法学部ホームページ、平成27年度学修ガイド、学科履修規程2条2項及び5条2項
中項目(2)	法学部は、従来より明示しており、平成27年度においても継続している。	学科履修規程4条別表等、平成27年度学修ガイド（専門教育履修モデル・関連教育履修モデル）
中項目(3)	従来より、平成27年度も、教員および学生には、学修ガイドから周知している。また福岡大学公式ホームページおよび福岡大学法学部ホームページにより公表している。	福岡大学公式ホームページ、福岡大学法学部ホームページ、学科履修規程4条別表等（学修ガイド）
中項目(4)	カリキュラム委員会による、カリキュラム編成の検討及び改正案。	平成26年度カリキュラム委員会活動報告書、平成27年度カリキュラム委員会活動計画書、教授会資料平成27年2月19日、3月12日、9月15日。

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

経済学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	①学士課程の教育目標の明示 ②教育目標と学位授与方針との整合性 ③修得すべき学習成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	①教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 ②科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	①周知方法と有効性 ②社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	①定期的な検証

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後も学修ガイドやウェブサイトにおいて学位授与方針を明示する。	公表されたディプロマポリシー。
中項目(2)	今後もカリキュラム表、学部の紹介の中で教育課程の編成・実施方針を明示する。	学修ガイド、大学案内などの冊子、ウェブサイト等における記述。
中項目(3)	今後もカリキュラム表、学部の紹介の中で教育課程の編成・実施方針を公表する。	学修ガイド、大学案内などの冊子、ウェブサイト等における記述。
中項目(4)	平成30（2018）年までに1度、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施の適切性について確認する。	教授会議事録。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学修ガイド（1-E3 23頁、126頁）とウェブサイトにおいて学位授与方針を明示している。	既出 1-E3 平成27年度経済学部学修ガイド 既出 1-E4 福岡大学公式ウェブサイト ディプロマポリシー
中項目(2)	カリキュラム表、学部の紹介の中で教育課程の編成・実施方針を明示している（1-E3 136-211頁、4-1-E1 52-57頁）。	既出 1-E3 平成27年度経済学部学修ガイド 4-1-E1 2016大学案内 既出 1-E4 福岡大学公式ウェブサイト カリキュラムポリシー
中項目(3)	カリキュラム表、学部の紹介の中で教育課程の編成・実施方針を公表している（1-E3 136-211頁、4-1-E1 52-57頁）。	既出 1-E3 平成27年度経済学部学修ガイド 既出 4-1-E1 2016大学案内 既出 1-E4 福岡大学公式ウェブサイト カリキュラムポリシー
中項目(4)	今年、学部理念と目的を再検討し改正案を作成した。改正案によって学則が改正された後、教育目的と学位授与方針について再検討する。教育課程の編成・実施の適切性については、経済学科において再検討を始めた。	既出 1-E1 教授会議事録 既出 1-E2 経済学部の理念と教育目的 4-1-E2 経済学科会議事録

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

商学部

I. 中項目(点検・評価項目)・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	商学部および商学部第二部の学位授与方針が教育目標に基づいたものであるか否かを再検討する。	商学部および商学部第二部の学位授与方針の再検討の実施
中項目(2)	商学部および商学部第二部の教育課程の編成・実施方針が教育目標に基づき明示されているか否かを再検討する。	商学部および商学部第二部における教育課程の編成・実施方針の再検討の実施
中項目(3)	商学部および商学部第二部における教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員に周知され、社会に公表されているか否かを再検討する。	商学部および商学部第二部における教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の、大学内外への周知に関する再検討の実施
中項目(4)	商学部および商学部第二部の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性についての検証を、それ自体として定期的実施する。	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性についての検証の定期的実施

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	商学部および商学部第二部の学位授与方針は、商学部および商学部第二部のディプロマ・ポリシーと商学科・経営学科・貿易学科・商学部第二部商学科のディプロマ・ポリシーとして、福岡大学公式Webサイト上で公開されている。今までのところ、商学部および商学部第二部の教育目的と学位授与方針との間の整合性について、商学部教員から問題を提起する声は上がっておらず、したがって商学部および商学部第二部の学位授与方針の再検討は実施されていない。	
中項目(2)	商学部および商学部第二部の教育課程の編成・実施方針は、商学部および商学部第二部のカリキュラム・ポリシーと商学科・経営学科・貿易学科・商学部第二部商学科のカリキュラム・ポリシーとして、福岡大学公式Webサイト上で公開されている。今までのところ、商学部および商学部第二部における教育課程の編成・実施方針について、商学部教員の間から問題を提起する声は上がっておらず、したがって商学部および商学部第二部の学位授与方針の再検討は実施されていない。	
中項目(3)	商学部および商学部第二部における教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の、大学内外への周知の手段と方法に関して、今までのところ商学部教員の間から改善を求める声は上がっておらず、したがってそれらに関する再検討は実施されていない。	
中項目(4)	これまで教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性についての検証は、カリキュラムの改正の際に部分的には行われてきた。平成27年度には、商学部で2科目について名称変更が行われ、商学部第二部では4科目の廃止と10科目の新設が行われ、その検証が行われている。しかし、定期的な検証を行うための体制についてはまだ審議が開始されていない。	4-1-C1商学部教授会議事録(平成26年11月12日)、4-1-C2商学部教授会議事録(平成26年11月28日)

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

理学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程の教育目標の明示、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	地球圏科学科では、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）とディプロマ・ポリシーを大学案内、学部ガイド、学修ガイド等に明記すること。	大学案内、学部ガイド、学修ガイドへの掲載
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針・必修・選択・単位数について、教務連絡会議において検証する。	教務連絡会議における議事録を検証する。
中項目(3)	教育目標・三つのポリシーを大学案内、学部ガイド、学修ガイド、年報、ホームページにより周知し、社会へ公表する。	学科主任会、教授会における議事録を検証する。
中項目(4)	教育目標、三つのポリシー（「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」）を各学科会議、主任会、教授会で定期的に検証する。	毎年の自己点検・評価報告書の作成

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	すべての学科について、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）とディプロマ・ポリシーが大学案内、学部ガイド、平成27年度学修ガイド（理学部）、ホームページに明記されているため、この到達指標は削除する（4-1-S1、4-1-S2、4-1-S3 105頁、既出 3-S3）。	4-1-S1 大学案内2016 4-1-S2 学部ガイド（理学部） 4-1-S3 平成27年度学修ガイド（理学部） 既出 3-S3 理学部ホームページ
中項目(2)	地球圏科学科では、年間修得単位数の上限を49単位へと削減した。 物理科学科と化学科では、年間修得単位数の上限を48単位へと削減した（4-1-S4）。	4-1-S4 理学部主任会報告（平成26年9月16日）
中項目(3)	すべての学科について、教育目標・三つのポリシーが理学部・理学研究科年報、ホームページに掲載されている（既出 3-S4 3頁、既出 3-S3）。	既出 3-S4 理学部・理学研究科年報2013 既出 3-S3 理学部ホームページ
中項目(4)	教育目標・三つのポリシーが、すべての学科で定期的に検証されている（4-1-S5）。 各学科で、講義内容の検討及び学生指導の改善について議論を行った。	4-1-S5 平成26年度理学部自己点検・評価シート

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

工学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定しているか。学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は関連しているか。
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定しているか。教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表しているか。
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学位授与方針の明示を継続する。	平成30年度までのディプロマシーポリシー。
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針の明示を継続する。	平成30年度までのカリキュラムポリシー。
中項目(3)	学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を継続的に公表する。	平成30年度までの公表記載。
中項目(4)	学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を継続的に点検・改善を行う。	議事録。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学位授与方針を引続き明示している。	4-1-T1学修ガイド[工学部] 4-1-T2シラバス[工学部] 4-1-T3学則第31条から34条 4-1-T4各学科ホームページ 4-1-T5工学部・工学研究科資料集
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を引続き明示している。	4-1-T1学修ガイド[工学部] 4-1-T2シラバス[工学部] 4-1-T6学部ホームページ
中項目(3)	学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を引続き社会に公表している。	4-1-T1学修ガイド[工学部] 4-1-T2シラバス[工学部] 4-1-T4各学科ホームページ
中項目(4)	学位授与方針・教育課程の編成・実施方針について工学部教育点検・改善委員会の規程に基づいて確認を行っている。	既出1-T3「福岡大学工学部教育点検・改善委員会規程（平成25年4月10日制定）」

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

医学部医学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づき学位授与方針を明示している。
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示している。
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されている。
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っている。

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学位授与方針は継続的に明示していく。	定期的検証の実施
中項目(2)	基礎医学から臨床医学への移行を円滑に行う。臨床教育においては、病棟修練を国際基準に合わせる。看護学科においても同様である。	定期的検証の実施、国際認証への分野別評価基準に基づいた自己点検を行う。
中項目(3)	医学教育ワークショップ（年4回開催）の充実から教育方針に関する学内理解の向上を目標にする。	教育課程に関しては、学部ガイド CONTENTSやホームページ上に掲載し、大学構成員だけでなく外部からの閲覧も可能にする。
中項目(4)	外部委員、第三者委員の活用を目標にする。	毎回のFD推進・教務委員会、教授会で確認し、卒業評価判定に関しても検証する。また、父兄会、父兄後援会等を通して、学生の父母と交信する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	医学部6年次(医学部医学科卒業)においては、クリニカルクラークシップ、領域別集中講義(各科試験)、総合試験、PCC-OSCEを総合的に勘案し、卒業判定を行っている。最終判定はFD推進・教務委員会、医学部医学科教授会議で行う。成績不良者等には、各学年を通じて、医学部長、教務委員、学年担任等より、個別指導を行っている。良医の育成並びに医師国家試験における合格率の向上を念頭に置いた指導を行っている。医学科6年生のケアはかなりのものである。	・1-MM4既出「平成27年度教育要項」10頁
中項目(2)	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示している。1年次においても、一部、医学概論や基礎医学の講義が開始された(解剖学)。平成28(2016)年度からは、1年次に生化学の一部を移動する。2年次において、本格的な基礎医学の修得カリキュラムに移行する。3、4年次では、各科の臨床系統講義が開始され、4年次のCBT、OSCEの合格をもって、5年次以降の病棟における臨床実習が開始される。今後、定期的検証の実施、国際認証への分野別評価基準に基づいた点検を行う。	・1-MM4既出「平成27年度教育要項」23頁～26頁、29頁～33頁、36頁～44頁
中項目(3)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っている。医学科では「医学教育ワークショップ」（年4回開催）、カリキュラム検討委員会、FD推進・教務委員会、全国共用試験（CBT）に向けた医学教育、医師国家試験対策、PBLテュートリアル改善、学生班別会議、および全体会議を通して教職員で行っている。さらに種々の学外ワークショップへの参加、臨床教育指導者養成コースへの参加は毎年病院を中心に行われている。教育の編成・実施の方針の適切性は、毎回のFD推進・教務委員会、および医学科教授会で確認し、卒業評価判定に関しても検証をしている。また、医学部医学科父母後援会等を通して、学生の父母にも連絡している。シラバスの詳細な記載等から教育方針に関する学内理解の向上を目標にする。	
中項目(4)	毎回のFD推進・教務委員会、教授会で確認し、卒業評価判定に関しても検証する。また、医学部医学科父母後援会等を通して、学生の父母と交信する。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

医学部看護学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づき学位授与方針を明示している。
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示している。
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されている。
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っている。

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学位授与方針は継続的に明示していく。	定期的検証の実施
中項目(2)	基礎医学から臨床医学への移行を円滑に行う。臨床教育においては、病棟修練を国際基準に合わせる。看護学科においても同様である。	定期的検証の実施、国際認証への分野別評価基準に基づいた自己点検を行う。
中項目(3)	医学教育ワークショップ（年4回開催）の充実から教育方針に関する学内理解の向上を目標にする。	教育課程に関しては、学部ガイド CONTENTSやホームページ上に掲載し、大学構成員だけでなく外部からの閲覧も可能にする。
中項目(4)	外部委員、第3者委員の活用を目標にする。	毎回のFD推進・教務委員会、教授会で確認し、卒業評価判定に関しても検証する。また、父兄会、父兄後援会等を通して、学生の父母と交信する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科の学位授与方針は継続して明示されている。本学科の教育理念に基づく教育課程を履修し、総計125単位以上を修得し、成績や学習態度を含めて教務委員会、教授会議において審議し卒業判定を行っている。また、平成27年度教育改善活動計画案の作成にあたり、看護学科FD委員会と教授会議において、教育理念に基づく教育目標、教育課程および教育方法などの方針を検証している。	既出1-MN1 2015大学案内 4-MN1 看護学科教授会資料 【H26度卒業判定に関する補足説明 に関して】 既出1-MN2 平成27年度 看護学科学修ガイド 4-MN2 平成27年度教育改善活動計画案
中項目(2)	看護学科では、共通教育科目で教養教育や幅広い人間理解および科学的思考を学び、専門基礎科目では学問と向き合う姿勢や学問的技法、学ぶことの意義を理解する初年次教育科目や、看護学の専門基礎として健康・不健康を問わず、対象となる人間の心と身体のおもしろさを学ぶ。そして、専門教育科目では人間理解と多様な人間と対象に最適な健康状態となす働きかけや看護の社会的役割を学ぶ。また、看護実践能力の育成を図るために、「急性の成人看護」や「慢性の成人看護」、「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」の科目においてシミュレーション教育を導入し、学生の主体的な学習活動に基づく、科学的・論理的思考の能力、実践能力を高める工夫を行っている。	既出1-MN1 2015大学案内 既出1-MN2 平成27年度 看護学科学修ガイド 既出4-MN2 平成27年度教育改善活動計画案
中項目(3)	看護学科では、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について教職員や学生への周知は当然であるが、臨床のスタッフ・指導者にも実習指導者連絡会議においても随時説明を行い周知を図っている。	既出1-MN5 平成27年度後期・平成28年度前期 臨地実習要項（共通篇）
中項目(4)	看護学科では、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検討するために、卒業時の到達目標の調査を継続しFD委員会で分析され、教授会議で情報共有が図られている。卒業後の社会的評価については、一部の施設から情報が入るが、客観的情報と言えない側面もあり、検討が必要である。	既出3-MN2 看護学科FD活動報告書p73～80

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

薬学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程教育の教育目標の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性。社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	薬学教育モデルコア・カリキュラム改訂に伴い提示された、6年卒業時に必要とされる10の資質の修得を教育目標および学位授与方針へ反映させる。	新カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーの公表
中項目(2)	薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に伴う、教育課程の再編成とその明示	カリキュラム改訂とその公表
中項目(3)	薬学部ホームページでの教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の公表	薬学部ホームページの改訂
中項目(4)	カリキュラム検討委員会の設置	適正なカリキュラムの立案・作成とその運用

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	現在、6年卒業時に必要とされる10の資質の修得を反映させたカリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーの改訂作業を平成27年度中に実施予定である。	
中項目(2)	平成25年版薬学教育モデルコアカリキュラムに基づくカリキュラム改訂を実施し、平成27年度入学入学生より適用させた。	4-1-P1 平成27年度薬学部学修ガイド
中項目(3)	現在の薬学部のホームページには教育目標のみしか記載されていない。中項目(1)の新カリキュラムポリシーおよび新ディプロマポリシーを作成後にホームページにも掲載する。	
中項目(4)	中項目(2)の改訂において、薬学部教務委員会（教務委員経験者および現教務委員が構成員）および各分野（化学、物理、生物、衛生、薬理、薬剤、法規・制度、実務）の代表を中心にカリキュラム検討委員会を組織して改訂を実施した。今後も、このカリキュラム検討委員会を中心にカリキュラムのブラッシュアップを継続する。	4-1-P2 平成25年度第6回教授会資料11 4-1-P3 平成25年度第10回教授会資料22

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

スポーツ科学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	・学士課程の教育目標の明示 ・教育目標と学位授与方針の整合性 ・修得すべき学習成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	・教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 ・科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	・周知方法と有効性 ・社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	・学士課程の教育目標の明示、基づいた学位授与方針が明示されているだけでなく、教職員、学生が十分に理解している	・学修ガイドへの掲載とガイダンス等の回数
中項目(2)	・教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているだけでなく、教職員、学生が十分に理解している。	・学修ガイドへの掲載とガイダンス等の回数
中項目(3)	・教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されている。	・学修ガイド、大学案内、ホームページにおいて公表
中項目(4)	・教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、定期的に検証を行っている。	・学部カリキュラム委員会において適切性について検証し、教授会で検討を行う回数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	・学士課程の教育目標の明示、基づいた学位授与方針については、平成27年度学修ガイド（スポーツ科学部）に明記されており、教職員に配布しているので理解している。 ・学生には、各自学修ガイドを配布し、履修等のガイダンスを行っている。	既出1-G1 平成27年度学修ガイド スポーツ科学部 4-1-G1 平成27年度履修登録ガイダンスおよびスポーツ実習の種目登録に関する案内 4-1-G2 新入生科目登録ガイダンス
中項目(2)	・教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針については、平成27年度学修ガイド（スポーツ科学部）に明記されており、教職員に配布しているので理解している。 ・学生には、各自学習ガイドを配布し、履修等のガイダンスを行っている。	既出1-G1 平成27年度学修ガイド スポーツ科学部 既出4-1-G1 平成27年度履修登録ガイダンスおよびスポーツ実習種目登録に関する案内 既出4-1-G2 新入生科目登録ガイダンス
中項目(3)	・教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、平成27年度学修ガイド（スポーツ科学部大学構成員（教職員および学生等）に配布しているので、周知されている。学外の社会には、大学案内と学部ガイドに記載し、主に高校および受験生に配布している。また、福岡大学ホームページにおいて、スポーツ科学部独自のホームページの中でも紹介している。	既出1-G1 平成27年度学修ガイド スポーツ科学部 既出1-1-G3 福岡大学2016大学案内 既出1-G4 平成27年度「スポーツ科学部」ガイド 4-1-G3 スポーツ科学部ホームページ「ホーム、学部紹介」
中項目(4)	・教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、学部カリキュラム委員会において検討し、教授会で改善を行っている。	既出1-G2 平成26年度「魅力ある学士課程教育支援プログラム」体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書 4-1-G4 平成26年度教授会議事録(10月15日)資料7・8 4-1-G5 平成26年度教授会議事録(11月5日)資料2 既出3-G12 平成27年度教授会議事録(6月3日)資料5

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

人文科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学習成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針との整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	年度毎の学位授与率
中項目(2)	現状を維持する。	年度毎のシラバスにおける開講科目情報
中項目(3)	現状を維持する。	年度毎の「大学院便覧」「大学院入学試験要項」における記載内容
中項目(4)	現状を維持する。	年度毎の「大学院入学試験要項」における記載内容

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	専攻毎に3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）に基づく授業科目の設置とシラバスを作成し、授業（学習）目標・内容、履修内容・方法、到達評価基準を明示している。また平成27年度より修士学位及び博士学位取得にかかるガイドライン（指導内容・達成課題等）も年次毎に提示し、各論文作成にかかる研究・学修計画や日常指導に活かしている。	3-L-1平成27年度大学院便覧（教育目標、学位規程、修士学位取得のためのガイドライン、博士学位取得のためのガイドライン）
中項目(2)	現状どおり	3-L-1平成27年度大学院便覧（教育目標、学位規程、修士学位取得のためのガイドライン、博士学位取得のためのガイドライン）
中項目(3)	(1)(2)に関する内容は、平成27年度大学院便覧、大学院（人文科学研究科）入学試験要項（平成27年度、28年度版）、シラバス（平成27年度）に掲載するとともに、新入生ガイダンスにおいて各専攻毎に説明、案内している。	3-L-1平成27年度大学院便覧（教育目標、学位規程、修士学位取得のためのガイドライン、博士学位取得のためのガイドライン）
中項目(4)	毎年度、各専攻毎に検討されているとは思われるが、研究科としての検証システムがない。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

法学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	修士課程・博士課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標と学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	大学院便覧などの各種媒体でのディプロマ・ポリシーの明示。
中項目(2)	現状を維持する。	大学院便覧などの各種媒体でのカリキュラム・ポリシーの明示。
中項目(3)	現状を維持する。	大学院便覧などの各種媒体での教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの公表。
中項目(4)	教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性の定期的検証を通常委員会の中に設置される予定の小委員会の任務として検証作業をする。	左記小委員会による検証結果の公表。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	到達目標である「現状」は維持されている。	4-1-JD 10 大学院便覧 [ディプロマ・ポリシー]
中項目(2)	到達目標である「現状」は維持されている。	4-1-JD 10 大学院便覧 [ディプロマ・ポリシー]
中項目(3)	到達目標である「現状」は維持されている。	4-1-JD 10 大学院便覧 [ディプロマ・ポリシー]
中項目(4)	小委員会として将来構想委員会を設置したので、今後の作業工程を進めている。	既出 1-JD 6 通常委員会資料(平成27年5月19日) [法学研究科将来構想委員会構成員]

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

経済学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方針と有効性、社会への公表方針
中項目(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標に基づきより明確な学位授与基準を作る。	大学院便覧
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針とその目標をより明確にする。	大学院便覧
中項目(3)	教育目標、学位授与方針の社会への公表に積極的に努める。	大学院便覧
中項目(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、通常委員会、後期小委員会などを中心に定期的な検証を行っていく。	通常委員会議事録

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	大学院便覧と大学院HPを通じて学位授与方針を明示している。	既出1-ED3 平成27年度大学院便覧 既出1-ED4 経済学研究科公式ウェブサイト
中項目(2)	学位授与方針について、より明確な内規制定に向けて議論してきた。	4-ED5 後期小委員会議事録
中項目(3)	大学院便覧や入試要項のなかで教育課程の編成・実施方針を公表している。	既出1-ED3 平成27年度大学院便覧 4-ED6 平成27年度入試要項
中項目(4)	FD委員会を積極的に開催し、教育目標、教育課程の編成・実施方針についての改善案を議論してきた、その改善案をまとめた。	既出1-ED1 FD委員会開催通知 既出1-ED2 FD委員会会議資料

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

商学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づく博士課程前期および博士課程後期における学位授与方針の明確化
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標に基づく教育課程の編成・実施方針の明示化
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の明示化および学内および社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のよりいっそうの明確化	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
中項目(2)	教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を点検し、より現状に合うものにする。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
中項目(3)	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を学内外によりいっそう公表・周知する。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の公表・周知度
中項目(4)	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性について、通常委員会で検証していくこと。	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの定期的検証

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をよりいっそう明確化すべく、通常委員会で審議している。	
中項目(2)	教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を点検し、さらに現状に合うものとするべく、通常委員会で審議している。	
中項目(3)	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を学内外によりいっそう公表・周知すべく、通常委員会で審議している。	
中項目(4)	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは本商学研究科にとって適切性であるかどうか、通常委員会で検証している。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

理学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	修士課程・博士課程の教育目標の明示、教育目標と学位授与方針との整合性、修得すべき学習成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標や修得すべき学習成果の明示を、引続き継続していく。	明示されている媒体の有無
中項目(2)	引続き、教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成を行い、これらを大学院便覧等で明示していく。	明示されている媒体の有無
中項目(3)	教育目標、学位授与方針等を、引続き各種媒体に掲載し、周知・公表に努める。	掲載・公表されている媒体の数
中項目(4)	教育目標・学位授与方針等の適切性について、引続き検証していく。	当該検証に係る会議等の回数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	理学研究科としての教育目標および各専攻の教育目標は、平成27年度大学院便覧に博士課程前期と博士課程後期のそれぞれについて、個別に明示されている（既出 1-SD3）。また、同じく大学院便覧に、博士課程前期と博士課程後期のそれぞれについての学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明示されている（既出 1-SD3）。さらに学位授与基準、審査方法および審査基準が学位規程および学位取扱細則（4-1-SD1、4-1-SD2、4-1-SD3）で、博士課程前期と後期それぞれに定められている。これらの内容は、教育目標の各項の内容と対応したものとなっており、整合性が取れている。これらによって、修得すべき学修成果が分かるように明示されている	既出 1-SD3 平成27年度大学院便覧 4-1-SD1 福岡大学大学院学位規程 4-1-SD2 福岡大学大学院理学研究科修士学位取扱細則 4-1-SD3 福岡大学大学院理学研究科博士学位申請取扱細則
中項目(2)	教育目標や学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施の方針がカリキュラム・ポリシーとして、大学院便覧に明示されている（既出 1-SD3）。また、必要に応じて、カリキュラムの改定も行っている。さらに、大学院便覧に、科目区分や必修と選択の別、修得すべき単位数などが詳細に明示されている（既出 1-SD3）。	既出 1-SD3 平成27年度大学院便覧
中項目(3)	教育目標等を明示した大学院便覧（既出 1-SD3）は、年度初めにすべての大学院生および教員に配布され、ガイダンス等でも参照するものであるため、周知は徹底しており、有効である。また、この内容は本学の公式ホームページにも掲載されており、社会への公表もなされている（既出 1-SD2）。	既出 1-SD3 平成27年度大学院便覧 既出 1-SD2 福岡大学公式ホームページ（教育研究上の目的／大学院）
中項目(4)	学位授与関連規程、教育課程編成等については、実績としては2年に一度程度、一部改訂等を行っている。平成24年度には博士学位申請取扱細則を一部訂正し、平成25年4月入学生からは、博士課程後期の単位化に伴う学則の改訂を行っており、本年度はこの学則変更の完成年度である（既出 1-SD3）。直近では平成26年2月18日の理学研究科通常委員会において、カリキュラム・ポリシーについて一部改訂を行っており（既出 1-SD4）、現在のところ変更の予定はない。	既出 1-SD3 平成27年度大学院便覧 既出 1-SD4 理学研究科通常委員会議事録（平成26年2月18日）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

工学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標と学位授与方針との整合性
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	専攻で共通する科目を中心に専攻を越えて、工学研究科全体で教育目標を設定し、検討を行う委員会を組織する。	委員会規程作成し運用する。外部評価委員会での評価を受ける。
中項目(2)	各専攻の教育課程編成及び実施方針を工学研究科全体で検討する委員会を組織し、実施状況をモニタリングする。	委員会規程作成し運用する。外部評価委員会での評価を受ける。
中項目(3)	工学研究科全体で検討した教育目標と実施方針を全教員に毎年報告、教員の意見を聞く。	報告書作成と外部評価委員会での評価結果。
中項目(4)	毎年、教育目標、教育課程編成について検討を行い、明文化する。	外部評価委員会での評価を受ける。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育内容検討会議を工学研究科内に組織した。構成員は、研究科長、大学院委員、学務委員、各専攻の主任である。原則的に、年2回開催し、研究科として研究目標等の検討が始まった(4-1-TD1)。	4-1-TD1 教育内容検討会議(平成27年4月22日開催)資料抜粋
中項目(2)	教育内容検討会議を工学研究科内に組織した。構成員は、研究科長、大学院委員、学務委員、各専攻の主任である。原則的に、年2回開催し、研究科として研究目標等の検討が始まった(既出4-1-TD1)。	既出4-1-TD1 教育内容検討会議(平成27年4月22日開催)資料抜粋
中項目(3)	通常委員会の議題として、各専攻のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを検討し、教員の意見を聞いた後承認をとって全教員への周知を図っている。学生への周知は、印刷物及びホームページで行っている(4-1-TD2、4-1-TD3)。	4-1-TD2 平成27年度大学院便覧、 4-1-TD3 福岡大学大学院HP 3つのポリシー (http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu820/home1/guide/policy.html)
中項目(4)	今年度は12月開催予定の教育内容検討会議で、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの内容を検討、確認し、その後通常委員会で教員へ説明し、意見を聞く予定である。委員会後、学位取得のためのガイドラインとともに、学生に配布して、周知に努める。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

医学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示、修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	組織再編に伴う教育目標等の内容・明示方法の検討	博士・修士課程改革小委員会による検討
中項目(2)	(社会人入学者を含む) 大学院教育の多様化に対応したカリキュラム・授業形態等の見直し	カリキュラム・シラバスの再検討
中項目(3)	研究科の特色・魅力を発信するための広報活動	HP等を介した広報活動の活性化
中項目(4)	FD等による定期的な検証	FDの定期的開催

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程では、平成27年度から「医療イノベーションコース」が臨床研究科学専攻系に新設され、これに応じたシラバスの改正が行われた。（既出 1-MD1～1-MD3） 修士課程（看護学専攻）においても、「高度実践看護師コース」の導入に向けて、教育目標やカリキュラムの検討が始められた。（既出 1-MD4, 1-MD8 22～23頁）	既出 1-MD1 平成27年度 大学院入学試験要項 医学研究科博士課程 既出 1-MD2 平成27年度 大学院医学研究科博士課程シラバス 既出 1-MD3 福岡大学大学院学則一部改正について 既出 1-MD4 大学院カリキュラム改正ワーキング議事録 既出1-MD8 福岡大学医学部看護学科FD活動報告書第2号
中項目(2)	博士課程においては、平成26年度中に、コースワーク・リサーチワークがより統合的に行われるように医学研究科改革小委員会、博士課程小委員会で議論を重ね、シラバスの改定を行い、平成27年度入学者から施行している。（4(1)-MD1、既出 1-MD1～1-MD3, 1-MD9） 修士課程（看護学専攻）においては、教員の退職・新規採用に伴う、専門領域の改訂とカリキュラムの改正が行われた。また平成29年度の「高度実践看護師コース」の導入に向けてカリキュラムの再編を行っている。（4(1)-MD2 8～11頁、既出 1-MD4, 1-MD10）	4. 1-MD1 平成26年度医学研究科博士課程小委員会議事録 4. 1-MD2 平成27年度 大学院入学試験要項 医学研究科看護学専攻（修士課程） 既出 1-MD1 平成27年度 大学院入学試験要項 医学研究科博士課程 既出 1-MD2 平成27年度 大学院医学研究科博士課程シラバス 既出 1-MD3 福岡大学大学院学則一部改正について 既出 1-MD4 大学院カリキュラム改正ワーキング議事録 既出 1-MD9 医学研究科博士課程改革小委員会議事録 既出 1-MD10 医学研究科看護学専攻修士課程専攻会議事録
中項目(3)	医学研究科（博士課程、修士課程）の特色・魅力を発信するための広報活動に関しては、医学研究科改革小委員会で議論し、HPの大幅更新について、現在検討中である。（既出 1-MD9）	既出 1-MD9 医学研究科博士課程改革小委員会議事録
中項目(4)	医学研究科全体のFD活動に関しては、これまでのところ、研究倫理関連の啓蒙セミナーが2回開かれた以外、全体的な活動は殆ど行われていない。（既出 1-MD7） 修士課程（看護学専攻）では、FD活動の必要性が認識されているが、修士課程独自の定期的なFD活動は、高度実践看護師コースの導入に向けたもの以外まだ行われていない。（既出 1-MD8）	既出 1-MD7 セミナー案内文書（2回分） 既出 1-MD8 福岡大学医学部看護学科FD活動報告書第2号

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

薬学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程の教育目標の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分, 必修・選択の別, 単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性 社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	カリキュラム改定の検討

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標及び学位授与方針が冊子、Webともに理解されやすく明示されている。	教育目標等に関する教員、大学院生、学部生の理解度
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針を毎年検証し、カリキュラム改訂を検討する。	通常委員会において検証・検討し、議事録に残す。
中項目(3)	研究科構成員全員（教員、学生）がカリキュラムを周知している。	通常委員会において検証・検討し、議事録に残す。新入生ガイダンスにおける詳細な説明。
中項目(4)	カリキュラムが更新されている。	通常委員会において検証し、議事録に残す。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	冊子、WEBともに理解されやすく明示されている。	既出1-P1 大学院便覧(平成27年度) 既出1-P2 福岡大学大学院HP 既出1-P3 福岡大学薬学研究科 HP http://www.pha.fukuoka-u.ac.jp/user/kenkyu/web/
中項目(2)	本年度が博士課程の完成年度であり、カリキュラム改定については次年度以降検討を行う。ただし、特別実験の研究テーマについては、各研究分野の情勢や社会的要請の変化をうけて、適宜対応している。	既出1-P1 大学院便覧(平成27年度) 既出1-P2 福岡大学大学院HP 既出1-P3 福岡大学薬学研究科 HP http://www.pha.fukuoka-u.ac.jp/user/kenkyu/web/ 既出1-P4 大学院入学試験要項(平成27年度)
中項目(3)	教員については、通常委員会にて確認周知している。学生については、新入生ガイダンスにて周知している。	既出1-P1 大学院便覧(平成27年度) 既出1-P2 福岡大学大学院HP 既出1-P3 福岡大学薬学研究科 HP http://www.pha.fukuoka-u.ac.jp/user/kenkyu/web/
中項目(4)	講義担当者及び内容について変更が生じた場合は、通常委員会にて対応している。	4-1-P1 通常委員会議事録

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

スポーツ健康科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示, 教育目標と学位授与方針との整合性, 修得すべき学修成果の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示, 科目区分・必修・選択の別・単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性, 社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現在も適切に行われており、現状を維持するように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(2)	現在も適切に行われており、現状を維持するように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(3)	年度当初の通常委員会で構成員に対し、教育の目標や理念を周知し、インターネットなどを活用し広く社会への公表するように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(4)	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について検証する。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	研究科の教育目標および3つのポリシーが作成され、これらは大学院便覧などの印刷媒体および大学院のホームページに掲載され、社会に公表されている。この教育目標に基づき、学位授与方針が制定されており、両者の整合性はとれている。学位取得に必要な学修成果はスポーツ健康科学研究科博士學位申請取扱細則に明示されている。これらの方針は現状を維持する。	既出 1-GD1 大学院便覧 4-GD1 福岡大学大学院 スポーツ健康科学研究科博士學位申請取扱細則
中項目(2)	研究科の教育目標および学位授与方針に基づくカリキュラムおよびシラバスが作成されており、大学院入学試験要項および大学院便覧などの印刷媒体および大学院のホームページに掲載され、社会に明示されている。この方針を維持し、今後も公表を継続する。	既出 1-GD1 大学院便覧 4-GD2 福岡大学大学院 入学試験要項
中項目(3)	学位授与に必要な科目区分や必修と選択の別、修得すべき単位数などは大学院入学試験要項および大学院便覧などの印刷媒体および大学院のホームページに掲載され、社会に明示されている。この方針を維持し、今後も公表を継続する。	既出 1-GD1 大学院便覧 4-GD2 福岡大学大学院 入学試験要項
中項目(4)	研究科の教育目標および3つのポリシーについては長期的な視野のもとに作成されているので今年度は検討していない。	既出 1-GD1 大学院便覧

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-1. 教育内容・方法・成果（教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針）

法曹実務研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
中項目(2)	(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
中項目(3)	(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性、社会への公表方法
中項目(4)	(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標の明示に関する現在の状況を維持、継続する。	学修ガイド等により現在と同程度の明示がなされているか否か。
中項目(2)	教育課程の編成・実施方針に関する現在の状況を維持、継続する。	学修ガイド等により現在と同程度の明示がなされているか否か。
中項目(3)	大学構成員への周知、社会への公表に関する現在の状況を維持、継続する。	学修ガイド、ホームページ等により現在と同程度の明示がなされているか否か。
中項目(4)	教育目標等の定期的検討がなされている現在の状況を維持、継続する。	カリキュラム検討委員会や教授会で定期的に検討がなされているか否か。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	満足すべき状況にある	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド4頁
中項目(2)	満足すべき状況にある	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド4頁
中項目(3)	満足すべき状況にある	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド4頁、4-1-法科1 本法科大学院ホームページ（「共通的到達目標」およびカリキュラム編成の基本方針）
中項目(4)	満足すべき状況にある	4-1-法科2 教授会資料（カリキュラム検討委員会の提言）4頁以下

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

人文学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育、教養教育の位置づけ
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育課程の体系性の明確化	カリキュラムマップ等の整備がなされ、公表される。
中項目(2)	現在と同様、人材養成の目的を達成するために必要な教育を実施。	各学科による教育内容の検証

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学部として教育課程の体系性を一層明確にするための取り組みは行われていない。カリキュラムマップ等の整備及びその公表に向けての取り組みも行われていない。	
中項目(2)	平成26年度に引き続き、学部の人材養成の目的を達成するために必要な教育を実施している。各学科による教育内容の検証は行われていない。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

法学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後も、授業科目の適切な配置、教育課程の体系的編成等を目指して、定期的な検証・改善を行う。	カリキュラム改正の適切性
中項目(2)	今後も、学士課程教育に相応しい教育内容の提供を目指して、定期的な検証・改善を行う	履修モデルの充実と履修登録学生数の増加

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成27年度施行の改正カリキュラムを実施した（平成27年度学修ガイド209、217頁）。今回の改正の主な内容は、民法科目の名称・内容を全面的に見直したこと（民法典の編別に沿った体系的カリキュラムに変更）、意欲ある学生を対象とする法律学科法律総合コースの特講科目の受講を経営法学科の学生にも認めたこと、新設科目として国際民事手続法を設置したこと（同時に国際取引法の単位を4単位から2単位に変更したこと）などである。とくに民法科目は専門科目の中で要となるものであり、体系的な学習が可能になるようにカリキュラムを再編成した。	平成26年度学部内委員会活動報告書（平成27年5月19日付法学部教授会資料）、平成27年度学修ガイド
中項目(2)	学修ガイド（97頁以下）において専門教育履修モデルを明示し、科目登録ガイダンス等において同履修モデルに沿った科目登録を行うよう指導した。	平成27年度学修ガイド

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

経済学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	①必要な授業科目の開設状況 ②順次性のある授業科目の体系的配置
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	①学士課程教育に相応しい教育内容の提供 ②初年次教育・高大連携教育に配慮した教育内容

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	経済学科では、平成10（1998）年度のカリキュラム改正以来、全体的な見直しを行っていないので、カリキュラムの再検討を今年度の事業に入れている。相当の時間がかかるであろうが平成30（2018）年までにその結果を出したい。	学修ガイドに新カリキュラムが掲載されること。
中項目(2)	初年次教育について教育内容を確定して実行に移す。	学修ガイドやシラバスに初年次教育について明記されること。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	経済学科のカリキュラムの再検討を開始した。	既出 3-E12 教授会議事録 既出 3-E13 平成27年度事業計画の実行について 既出 4-1-E2 経済学科会議事録
中項目(2)	経済学科において初年次演習を開始した（1-E3 137頁）。また、初年次教育内容として、就職準備、学生生活指導、インターネットやSNSの利用についての指導を盛り込むことにした。	既出 1-E3 平成27年度経済学部学修ガイド 既出 3-E11 教授会議事録

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

商学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次制のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士過程教育に相応しい教育内容の提供、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	時代・社会の要請に応じた科目体系の見直しとともに、科目群ごとの履修モデルを学生に周知する。	カリキュラム表における新設・統廃合科目。履修モデルの周知のためのスタディガイドの改訂。
中項目(2)	基礎ゼミナールおよび専門ゼミナールの履修率を高める。	基礎ゼミナール履修率、専門ゼミナール履修率

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	商学部第二部に2年間連続したゼミナールを設置することを昨年度に検討事項としてあげたが、これは教学問題検討委員会において検討中である。しかし、2年連続同一のゼミナールではないが、1年間のゼミナールを2度受講できるように科目を新設した。	4-2-C1平成27年度商学部第二部学修ガイド(87頁)
中項目(2)	平成27年度の2年専門ゼミナールの履修率は、学生へのアピールが功を奏し、目標(80%)を上回る約81.2%となった。	4-2-C2商学部教授会資料(平成27年7月8日) 2頁。

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

理学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供、初年時教育・高大連携に配慮した教育内容

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	カリキュラム上の科目の整理についての検討	検討の対象とした科目数の割合
中項目(2)	学生に対する教育内容の配慮	多様化した学生に配慮して教育内容・方法を工夫した科目数の割合

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	地球圏科学科では、化学系科目の一部統合と情報系科目の開講年次変更を行った。物理科学科と化学科では、教育課程の体系化のため、開講年次変更を行った（既出 4-1-S3、4-2-S1）。科目ナンバリングの検討を始めた。	既出 4-1-S3 平成27年度学修ガイド（理学部） 4-2-S1 理学部教授会議事録、資料（平成26年9月30日）
中項目(2)	応用数学科では、高等学校の学習指導要領の改訂に対応するため、1年次の線形代数の教科書を新しく書き換えた。各学科でリメディアル教育、初年次教育科目を設定している（4-2-S2 17頁、133頁、134頁、135頁、279頁、280頁、433頁）。	4-2-S2 平成27年度シラバス（理学部）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

工学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	順次性のある授業科目は体系的に配置されているか、専門教育・教養教育は明確な位置づけがなされているか。
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供されているか、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容となっているか。

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	時代・社会の変化に合わせて授業科目・教育課程の体系を再点検し、更なる改善を図る。および教育体系に配慮したシラバス記載内容の改善と、学生の学習体系への理解度向上。	入学生の学力、卒業生の就職状況の変化を分析した報告。上記分析結果を踏まえた科目設置・体系に関する点検・改善の検討。
中項目(2)	専門科目と導入教育の連携性の強化および、成績分析に基づいた修学指導などのフィードバック系の構築など学生の学力の変化に合わせて教育内容を再点検し、更なる改善を図る。	各年次の学生の学力及び学習・生活状況の変化を分析した報告。上記点検結果を踏まえた点検・改善の検討。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育課程の体系をわかりやすくするために、履修系統図の見直し及び作成を行っている。	4-2-T1工学部教育に関する会議議事録（20150121） 4-2-T2工学部教育に関する会議議事録（20150617）
中項目(2)	次の新しい取り組みを通して学生の学力を細かく把握し、より相応しい教育を提供することを可能にしている。 ①1年次生に「宿泊研修」または「自分を知り、他者を知り、チームビルディングを行う」プログラムを実施（教職員も参加） ②授業欠席率の高い学生の随時面談・指導	4-2-T2工学部教育に関する会議議事録（20150617） 4-2-T3平成27年度教育推進経費申請書類：計画案

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

医学部医学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	医学科では必要な授業科目を開設し、順次性のある授業科目を体系的に配置している。看護学科では教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。必要な授業科目の開設状況。順序性のある授業科目の体系的配置。専門教育、教養教育の位置づけ。
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	医学科では初年次教育に配慮した教育内容になっている。理論と実務との架橋を図る教育内容を提供している。看護学科では教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供している。学士課程に相応しい教育内容の提供。初年次教育・高大連携に配慮した教育内容。専門分野の高度化に対応した教育内容の提供。理論と実務の架け橋を図る教育内容の提供。

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	医学部では、理論と実務との架橋を図る教育内容を提供する。	教育課程の編成・実施方針を指標にし、公開する。
中項目(2)	座学講義並びに実験実習により医学の基礎知識を広くかつ深く系統的に学べる工夫を目標にする。臨床で活かせる医学知識の習得を可能にするカリキュラムを提示する。	教育課程の編成・実施方針を指標にし、公開する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	医学部では、理論と実務との架橋を図る教育内容を提供する。医学科は教育課程の編成・実施方針に基づき、授業カリキュラムはFD推進・教務委員会や教授会での検討、公知、承認を経て、授業科目を適切に開設している。教育課程の編成に関しては、第1学年-第4学年は臨床前教育、第5学年、第6学年においては臨床実習を主体とする臨床教育を主体としている。良医の育成に向け、体系的かつ段階的な教育カリキュラムの編成を行っている。	
中項目(2)	座学講義並びに実験実習により医学の基礎知識を広くかつ深く系統的に学べるようになった。臨床で活かせる医学知識の習得を可能にするカリキュラムを平成28(2016)年度よりとり入れる。1コマの中で基礎と臨床を統合した講義(水平統合講義)をとり入れる予定である。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

医学部看護学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	医学科では必要な授業科目を開設し、順次性のある授業科目を体系的に配置している。看護学科では教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。必要な授業科目の開設状況。順序性のある授業科目の体系的配置。専門教育、教養教育の位置づけ。
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	医学科では初年次教育に配慮した教育内容になっている。理論と実務との架橋を図る教育内容を提供している。看護学科では教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供している。学士課程に相応しい教育内容の提供。初年次教育・高大連携に配慮した教育内容。専門分野の高度化に対応した教育内容の提供。理論と実務の架け橋を図る教育内容の提供。

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	医学部では、理論と実務との架橋を図る教育内容を提供する。	教育課程の編成・実施方針を指標にし、公開する。
中項目(2)	座学講義並びに実験実習により医学の基礎知識を広くかつ深く系統的に学べる工夫を目標にする。臨床で活かせる医学知識の習得を可能にするカリキュラムを提示する。	教育課程の編成・実施方針を指標にし、公開する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科の教育課程は、「豊かな人間性・生命の尊厳」「科学的な思考」「チーム医療」「実践能力」「主体的態度」「国際的視野と活動」を教育内容に組み込んだ科目を有機的に編成している。授業科目は総合系列科目の「生命倫理と医療技術」が開設されない時期があったが、平成25年度から看護学科教員が科目責任者となりオムニバスで開設した。総合教養科目は61科目から選択するが、全ての科目が履修可能な時間割に編成している。	既出1-MN1 2015大学案内 既出1-MN2 平成27年度 看護学科学修ガイド 既出4-MN2 平成27年度教育改善活動計画案
中項目(2)	看護学科では初年次教育として平成24(2012)年度からスタディスキルを開設し、大学生として学ぶための基本的な学習スキルや社会的スキルの習得を促し、協同学習に基づく主体的な学習活動に取り入れている。また、平成25(2013)年度からクラス担任のゼミナールによる学び合い学習を実施している。総合系列科目の「生命倫理と医療技術」は、試験を実施する科目に変更し興味関心のある学生が履修している。看護学科学生の多くが履修登録し、他学部学生とともに充実した学びの場になっている。人のいのちや死、生き方まで思考する学びを得て、好評を得ている。	既出1-MN2 平成27年度 看護学科学修ガイド

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

薬学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況。順次正のある授業科目の体系的配置。専門教育・教養教育の位置づけ
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供。初年次教育・高大連携に対応した教育内容

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	平成25年12月版薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく、学習成果基盤型教育（outcome-based education）に力点を置いたカリキュラムの構築	カリキュラムマップの作製
中項目(2)	リメディアル教育を含む、低学年次（1～2年次）教育の更なる充実を図る	低学年次における進級率の上昇

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成25年12月版薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいたカリキュラム改訂を平成26年に実施し、平成27年度入学生より適用した。その際に、モデルコアカリキュラムで示された卒業時に必要とされる10の資質をアウトカムに設定したカリキュラムマップを作成した。	既出4-1-P1 平成27年度学修ガイド
中項目(2)	1年次生に対して入学時にプレイスメントテスト（化学、生物、物理、数学）を実施し、各々科目成績下位者に対しては正課外にリメディアル授業を実施して、専門科目への橋渡し教育を行っている。	4-2-P1 平成27年度第1回教授会資料10

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

スポーツ科学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な授業科目の開設状況 ・順次性のある授業科目の体系的措置 ・専門教育・教養教育の位置づけ、
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	・初年次教育・高大連系に配慮した教育内容

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	・教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に十分に編成している	・学則に明記され、学修ガイドに明示している
中項目(2)	・初年次教育・高大連系に配慮した教育内容になっている	・学修ガイド等に高大連携を配慮した初年次教育の科目を明示する

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	<p>・1年次より、就職等の進路を見据えてコース推奨科目群を設定していることで、早い時期から学生の目的意識が明確になり、3年次からのコース選択がスムーズにできている。したがって、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に適切に編成している。</p> <p>・必修科目となっている生涯スポーツ演習Ⅰ「アクアエクササイズ」を今年度より「フィットネス」の授業と統合して実施することとした。これは、受講する学生の水泳経験の有無や得意不得意など、学生のニーズや時代背景などに配慮しながら授業内容の充実を図ることを目的とした措置である。</p> <p>・来年度からの実施になるが、これまで水曜日4限目に実施されていた医学科1年生対象「生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ」の学科指定を解除し、スポーツ科学部が指定する複数クラスの中から、学生が先着順で履修クラスを選択できることとした。これは、医学部のカリキュラム改革に対する対応措置である。</p>	<p>既出1-G1 平成27年度学修ガイド スポーツ科学部</p> <p>既出4-1-G4 平成26年度教授会議事録（10月15日）資料8</p> <p>既出3-G8 平成27年度教授会議事録（4月2日）資料34</p> <p>既出3-G9 平成27年度教授会議事録（4月22日）資料7</p> <p>4-2-G1 平成27年度教授会議事録（9月2日）資料38</p>
中項目(2)	<p>・初年次導入教育を目的としたフレッシュマンセミナーⅠ・Ⅱを必修科目とし、文章力向上教育、コミュニケーション能力の向上によって日本語能力の向上を目指している（4-2-G2 24・25頁）。また、スポーツ科学部全教員によるオムニバス形式の授業で、スポーツ科学部入門教育を行っている。このように、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容を行っている。</p>	4-2-G2 平成27年度シラバス スポーツ科学部

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

人文科学研究科

I. 中項目(点検・評価項目)・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ、コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	各専攻とも、ディプロマポリシーに基づく専門職業人教育を強化する。	コースワークとして「演習」に職業教育に関する内容を明示する。
中項目(2)	リサーチ・ワークや職業教育に、学外専門機関・専門職員等の積極的活用が柔軟に出来るようにする。	正規の非常勤講師とは異なる招聘・協力講師(仮称)任用の制度化(予算化)。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	検討準備中	
中項目(2)	検討準備中	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

法学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	未開講科目を減少させる。	開講あるいは未開講科目の科目数。
中項目(2)	資格審査の条件整備。	条件が整備されること。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	法学研究科の専任教員のうち昨年度1名が転出したが、平成27年度から2名の教員が新たに法学研究科を担当することとなった。非常勤教員は昨年と同様である。結果として開講科目数は増えている。	4-2-JD 11~12 平成26年度および平成27年度法学研究科授業時間割表, 既出 1-JD 2 平成27年度大学院便覧
中項目(2)	法学・政治学の多様な専門分野の教員を大学院担当者として確保すべく努力し、今年度は労働法の担当者を確保できた。	既出 1-JD 2 平成27年度大学院便覧

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

経済学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育課程の編成等においてさらなる改善が可能かどうか、FD委員会や通常委員会にて検討を行う。	FD委員会資料 通常委員会議事録
中項目(2)	教育内容のさらなる改善が可能かどうか、FD委員会や通常委員会にて検討を行う。	FD委員会資料 通常委員会議事録

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	FD委員会を通じて、より体系的な教育課程の編成に向けた改善案をまとめてきた。	既出1 - ED 1 FD委員会開催通知 既出1 - ED 2 FD委員会会議資料
中項目(2)	各課程に基礎科目群を作り、博士課程前期において、基礎教育を充実化させる方向での改善案をまとめてきた。	既出1 - ED 1 FD委員会開催通知 既出1 - ED 2 FD委員会会議資料

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

商学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	博士課程前期および博士課程後期における単位および履修方法の明示化
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	商学、貿易、経営、会計各分野における専門分野の高度化に対応した教育内容

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	未開講科目についてその見直しをも含め、減少させる。	未開講科目
中項目(2)	経済構造・産業構造の高度化により対応した科目の設置、開講	新科目の設置・開講

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	未開講科目について、本年度は博士課程前期においては「財務会計論講義」、「財務会計論研究」、「商業学講義」、「商業学研究」を開講した。また、博士課程後期では「貿易論特別研究Ⅰa」～「貿易論特別研究Ⅲb」を開講した。	
中項目(2)	経済構造・産業構造の高度化により対応した科目の設置、開講に向けて通常委員会で審議している。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

理学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ、コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状のカリキュラムを維持する。	大学院便覧への記載
中項目(2)	現状のカリキュラムを維持する。	大学院便覧への記載

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	カリキュラムが維持されている。	既出 1-SD3 平成27年度大学院便覧
中項目(2)	カリキュラムが維持されている。	既出 1-SD3 平成27年度大学院便覧

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

工学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	他大学大学院と研究交流協定を締結し、履修科目だけでなく研究に関する他大学で行うことを可能にする。	他大学大学院との研究交流協定締結実績及び研究交流を行った大学院生数で評価する。
中項目(2)	他大学大学院と研究交流協定を締結し、履修科目だけでなく研究に関する他大学で行うことを可能にする。	他大学大学院との研究交流協定締結実績及び研究交流を行った大学院生数で評価する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	大分大学大学院工学研究科と特別研究学生交流に関する協定を結び、博士課程前期の学生を他大学で研究指導させることが可能になった。これによって、2名の学生の研究を大分大学で実施した（4-2-TD1）。	4-2-TD1 福岡大学大学院工学研究科と大分大学大学院工学研究科との間における特別研究学生交流協定書
中項目(2)	大分大学大学院工学研究科と特別研究学生交流に関する協定を結び、博士課程前期の学生を他大学で研究指導させることが可能になった。これによって、2名の学生の研究を大分大学で実施した（既出4-2-TD1）。	既出4-2-TD1 福岡大学大学院工学研究科と大分大学大学院工学研究科との間における特別研究学生交流協定書

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

医学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ、コースワークとリサーチワークのバランス
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院)

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	専門科目のカリキュラムの見直し	カリキュラム再編
中項目(2)	カリキュラム実施方法の検討	講義形態の多様化

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程においては、コースワークにおける共通科目のコマ数を増やし、研究倫理に関する講義などを追加して内容を充実させた。またリサーチワークに関わる講義・実習時間が従来のカリキュラムでは、予定通り実施されにくかった点を考慮し、数回の博士課程小委員会の議論を経て大幅な改正を行った。新しいカリキュラムは平成27年度入学者から実施している。（既出1-MD2, 1-MD3）	既出1-MD2 平成27年度 大学院医学研究科博士課程シラバス 既出1-MD3 福岡大学大学院学則一部改正について
中項目(2)	博士課程では、社会人入学者が多い現実に鑑み、平成26年度からオンライン教育システム（It's Class;HITACHI）によるビデオストリーミングによる配信を開始している。（既出1-MD5） また、一部では、Blogを利用したマイクロレクチャーシリーズ（社会医学系）を大学院在籍者のみならず、一般にも公開している。（4.2-MD1）	4.2-MD1 福岡大学医学部授業支援システム（It's class関連リンク） 既出1-MD5 大学院講義のストリーミング配信について

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

薬学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(修・博士)

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育課程を毎年検証している。	通常委員会の議題
中項目(2)	授業シラバスが常に更新され、新しい内容に置き換わっている。	シラバスのチェック

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育課程を毎年通常委員会にて検証している。	既出 1-P1 既出 1-P3
中項目(2)	授業シラバスは毎年更新されている。適正な内容となっている。	既出 1-P1 既出 1-P3

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

スポーツ健康科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況、順次性のある授業科目の体系的配置、専門教育・教養教育の位置づけ、コースワークとリサーチワークのバランス(大学院)
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	学士課程教育に相応しい教育内容の提供、初年次教育・高大連携に配慮した教育内容、専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(大学院)、理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専門職)

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているかを再度検証する。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(2)	現在も適切に行われているが、さらに研究成果を講義などに反映させるように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程前期には6つの部門（体育学、体力学、スポーツ医学、体育科教育学、コーチ学、運動健康学）が配置されているが、その各々に所属する教員全員が特修科目（選択科目）を担当し、特にスポーツ医学部門では、講義形式の授業と臨床の現場での実習形式の授業が対となって開講されているのが特徴である。これらは継続して開講している。さらに、教養的な位置づけを持つ科目として、博士課程前期では「体育学研究概論」、博士課程後期では「スポーツ健康科学研究法」が配置されており、他に各専修にコースワークとしての特講ⅠおよびⅡ、リサーチワークとしての特別研究がある。これらについては現状を維持していく予定である。これらの他に、フィールドワークとして学外研究および研修ⅠおよびⅡが履修可能であるが、現在まで履修者はいない状況である。	既出 1-GD1 大学院便覧
中項目(2)	アメリカ合衆国、カナダ連邦、韓国を中心として国外の大学との共同研究や、大学病院や専門病院と共同研究を行い、心臓リハビリテーション、脳血管障害、肥満、糖尿病などの運動療法に関する最新の高度な研究事例などを講義などで展開している。このような国外の大学や研究機関との共同研究を通じてより高度な研究教育環境を維持していく予定である。また、学生の国際学会での発表を支援するための「国際学会発表スキル特論」を充実させるためにネイティブ教員の採用を検討している。	4-GD3 福岡大学大学院シラバス

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-2. 教育内容・方法・成果（教育課程・教育内容）

法曹実務研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点	必要な授業科目の開設状況
中項目(2)	(2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
評価の視点	理論と実務との架橋を図る教育内容の提供

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	必要な授業科目に関する現在の開設状況を維持、継続する。	現在と同程度の授業科目が開設されているか否か。
中項目(2)	理論と実務を架橋する具体的な教育方法論を確立し、各科目で実践する。	教育方法論が確立されているか否か。また、これに従った教育実践がなされているか否か。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	満足すべき状況にある。	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド27-29頁、既出1-法科2 法科大学院パンフレット9-12頁、4-2-法科1 福岡大学法科大学院ホームページ（教育・教員-2015年度カリキュラム）
中項目(2)	なお満足すべき状況とはいえ、改善の余地がある	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド27-30頁、既出1-法科2 法科大学院パンフレット9-12頁、4-2-法科1 福岡大学法科大学院ホームページ（教育・教員-2015年度カリキュラム）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目 (評価の基準): 4-3. 教育内容・方法・成果 (教育方法)

人文学部

I. 中項目(点検・評価項目)・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体的参加を促す授業方法
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学術の進展および社会の要請に応じた教育の実施	教育の充実に向けたカリキュラム改正や教育方法の改善
中項目(2)	シラバス記載内容の充実	各学科によるシラバスチェックの実施
中項目(3)	現状のとおり厳格な単位認定が行われる	規程・基準に則った単位認定作業の実施
中項目(4)	教育内容・方法の改善に向けた取り組みの継続	各学科で教育の改善に向けた取り組みが毎年実施されていること

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	今年度は、カリキュラム改正を行った。 東アジア地域言語学科は、留学生と本学日本人学生が共に学ぶ「東アジア相互理解演習」を開設する。相互理解や信頼感、国際感覚を育むとともに、語学力の向上にも寄与することが期待される。複数の学科には関連教育科目としても開設し、他学科学生も受講できる形とした。 併せて、ドイツ語学科、フランス語学科に開講される「ヨーロッパ地域文化特講」についても他学科からの受講ができるよう複数の学科において関連教育科目として開設することとした。 既設の「コンピュータ入門Ⅰ・Ⅱ」に加えて、複数の学科で「コンピュータ入門Ⅲ・Ⅳ」(関連教育科目)を開設し、情報教育の充実を図った。 日本語日本文学科は、履修者のほとんどない関連教育科目を削除し、カリキュラムのスリム化を行った。	人文学部教授会議事録
中項目(2)	シラバス作成にあたっては、教務委員会で作成した全学的ガイドラインに従って、各学科で組織的に点検を行っている。授業アンケートにおいては、シラバスの内容に沿った授業が行われているかを確認する質問項目も設けている。	人文学部教授会議事録 平成26年度授業アンケート
中項目(3)	成績評価基準はあらかじめシラバスに明記している。事前事後学習の指示に加えて、多くの科目でレポートや小テストなど授業時間外での学習を促す工夫をしている。履修科目登録の上限設定により、十分な学習の時間を確保して単位制度の実質化を図っている。学生が自分の評点に疑問がある場合に、大学に問い合わせる制度も整えている。編入学、転部・転科、学士入学においては、他大学・他学科での既修得単位を教務委員会の定める基準により認定している。また、海外の大学との学生交換協定をもとに単位を認定する制度もある。	平成27年度人文学部シラバス 学科履修規程第5条第1項 平成27年度人文学部シラバス 編・転入学、学士入学単位 換算認定基準
中項目(4)	本学部ではFD委員会を組織し、教員の授業改善、教育課程や教育内容・方法について議論を行っている。授業アンケートの結果を分析し、議論を行っている。その結果として、授業のどのような部分を改善することが学生の理解向上に最も効果があると考えられるか示すことができている。各学科の導入教育・初年次教育の実践をFD委員会の中で共有し、相互に参考にすることを目指している。	FD委員会議事録

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

法学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習）の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体的参加を促す授業方法
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後も、全学的な基準に基づいて授業形態等を適切に堅持するが、本学部独自の学生の主体的参加を促す授業形態の検証・改善を行う。	教育方法・学習指導の適切性、学生の主体的参加を促す方策の改善
中項目(2)	今後も、全学的基準に基づいてシラバスを作成、授業内容・方法とシラバスとの整合性を確保する。	シラバスの充実度、現実の授業との整合性の確保
中項目(3)	今後も、全学的な基準に基づいて成績評価等を進める。	成績評価と単位認定の適切性
中項目(4)	今後も、授業の改善を目指す全学的取組みに積極的に参加する。	組織的研修・研究への本学部教員の参加

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成27年度入学の学生より、1年次の修得単位数の上限を38単位から40単位に変更するとともに、2年次の履修単位数につき、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えて履修できるようにした（学科履修規程5条2項）。	学科履修規程
中項目(2)	カリキュラム委員会およびFD委員会のメンバーによって、各科目担当者から提出されたシラバスの内容をチェックしており、また、授業アンケートを実施することにより、シラバスと現実の授業の整合性を検証している。	平成27年度シラバス、福岡大学法学部ホームページ（2015年度前期法学部授業アンケート集計）
中項目(3)	成績審査規程1条および2条にもとづき、適切に成績評価を行っており、また、成績評価基準は、第三者のチェックを受けたシラバスに明記されており、その適切性が担保されている。	成績審査規程、平成27年度シラバス
中項目(4)	外部講師を招聘して、FDスタッフ研修を2回実施した。第1回は、精神科医の永井宏氏を講師として「大学生によくみられる精神科の病気について」というテーマで、第2回は、宮川成雄早稲田大学法科大学院教授を講師として「法学教育における臨床法学教育の役割」というテーマで実施した。	法学部教授会資料（平成27年3月12日付）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

経済学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	①教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 ②履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 ③学生の主体的参加を促す授業方法 ④実務的能力の向上を目指した教育方法
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	①シラバスの作成と内容の充実 ②授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	①厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 ②既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	①授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標の達成に適切なカリキュラムだが、現状維持に努め、さらなる向上を目指す。	教授会議事録。
中項目(2)	現状維持に努め、さらなる向上を目指す。	教授会議事録。
中項目(3)	学生に対して、定期試験勉強だけでなく、原則1単位45時間学習させるようなさらなる工夫を行う。	FD委員会および教授会議事録。
中項目(4)	授業評価アンケートの実施率100%を目指す。	授業評価アンケートの実施率。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	現状維持に努め、さらなる向上を目指している(1-E3 136-211頁)。	既出 1-E3 平成27年度経済学部学修ガイド 4-3-E1 経済学部シラバス
中項目(2)	現状維持に努め、さらなる向上を目指している。	既出 4-3-E1 経済学部シラバス
中項目(3)	FD委員会で講義以外の学習時間の拡大について検討することにした。	既出 3-E12 教授会議事録 既出 3-E13 平成27年度事業計画の実行について
中項目(4)	授業評価アンケートの実施を促している。平成26年度の実施率は、74.3%であった。	既出 1-E1 教授会議事録

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目 (評価の基準): 4-3. 教育内容・方法・成果 (教育方法)

商学部

I. 中項目(点検・評価項目)・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体的参加を促す授業方法
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明記)、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	1クラスの上限人数を300人未満とする。修学指導対象者を減らす。	1クラスの受講者数、修学指導対象者率
中項目(2)	シラバスと講義内容の整合性を高める。	授業アンケート結果
中項目(3)	成績問合せ制度により成績を修正する件数を減らす。	成績問い合わせ制度による成績修正件数
中項目(4)	FD関連の研修会やシンポジウム等への参加者数を増加させる。	FD関連の研修会やシンポジウム等への参加者数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	300人を超える大クラスは段階的に減らす教務委員会の方針に従い、当面、350人を超えるクラスの解消を目指した。商学部における登録制限科目に関する条件を設けた結果、平成26年度の350人以上のクラスが11であったのに対して、平成27年度は、9クラスに減少した。平成27年度の修学指導対象者率は前年度より若干上昇した。そこで、平成27年度においては、1年前期で成績不振だった学生を対象にして商学部全スタッフにより個別指導を行った。	4-3-C1商学部教授会資料(平成26年10月15日)4頁、4-3-C2商学部教授会資料(平成27年5月20日)9頁。
中項目(2)	シラバスの内容に関しては、シラバス作成のためのガイドラインが新たに教務委員会より公表されたため、それに基づいて作成し、各学科主任および教務委員がチェックを行った。	4-3-C3商学部教授会資料(平成27年2月19日)20頁。
中項目(3)	成績問合せ制度により成績の修正が行われたのは、昨年は7件であったが、平成27年度前期は、0件であった。	4-3-C4商学部教授会資料(平成27年4月7日)2頁。
中項目(4)	FD関連の研修会への参加は、特定の教員に限定されていた。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目 (評価の基準): 4-3. 教育内容・方法・成果 (教育方法)

理学部

I. 中項目(点検・評価項目)・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体性参加を促す授業方法
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	講義科目と演習科目の適正なバランスの維持 物理科学科、化学科、地球圏科学科の年間修得単位数の上限を50単位未満とするカリキュラム改正	講義・実験・演習などの開講数の割合、年間修得単位数の上限
中項目(2)	シラバスに示された授業内容・方法の実施	シラバスに沿って実施される授業の割合
中項目(3)	シラバスの評価に関する適切な記述状況の維持	シラバスに評価について記述されている科目の割合
中項目(4)	FD活動への教員の参加状況の改善	講演会などへの教員の参加率

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	地球圏科学科では、年間修得単位数の上限を49単位へと削減した。 物理科学科と化学科では、年間修得単位数の上限を48単位へと削減した(既出 4-1-S3 201頁、207頁、既出 4-1-S4、既出 4-2-S1)。	既出 4-1-S3 平成27年度学修ガイド(理学部) 既出 4-1-S4 理学部主任会報告(平成26年9月16日) 既出 4-2-S1 理学部教授会議事録、資料(平成26年9月30日)
中項目(2)	すべての講義科目で、15回分内容がシラバスに記載されている(既出 4-2-S2)。	既出 4-2-S2 平成27年度シラバス(理学部)
中項目(3)	すべての講義科目で、評価方法がシラバスに記載されている(既出 4-2-S2)。	既出 4-2-S2 平成27年度シラバス(理学部)
中項目(4)	学科内でFD講演会を開催し、教員意識改善に努めている。講演会には、ほとんどの学科構成教員が出席している(4-3-S2、既出 3-S4 17頁)。 教務委員、教務連絡員はFD活動(E-ラボ等)に参加し、教職員への情宣を行っている(4-3-S1)。	4-3-S1 E-ラボ参加者名簿 4-3-S2 教育改善活動の項目と成果報告および点検・評価(平成26年度)、平成27年度教育改善活動計画案 既出 3-S4 理学部・理学研究科年報2013

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

工学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	進級時の学年関門単位数の見直しを行う。	年間登録単位数の上限値
中項目(2)	シラバスの記載内容の充実度を保ち、授業内容・方法との整合性を保証する。	授業アンケートの評点
中項目(3)	厳格な成績評価の徹底を維持する。	授業アンケートと成績分布
中項目(4)	教育マネジメントのPDCAサイクルを継続的に実施する。	教育マネジメント実施報告書PDCAサイクルの継続的な実施について掲載がなされているかどうか

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	年間履修登録できる単位数の上限値を見直した。	4-3-T1 工学部学修ガイド
中項目(2)	シラバスに基づいて授業が展開されているかを点検するために、授業アンケート調査を行った。	4-3-T2 授業アンケート結果
中項目(3)	シラバス等で成績評価の方法を明記して周知している。 また、成績評価について学生から問い合わせ制度を実施している。	既出3-T4 シラバス 4-3-T3 成績評価に関する問い合わせ制度及び利用状況についての記録。
中項目(4)	組織的に教育マネジメントのPDCAサイクルを回している。	工学部教育・改善計画の流れ

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

医学部医学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	医学科では、教育目標の達成に向けた授業形態を採用し、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導を行っている。看護学科では、教育方法および学習指導は適切である。教育目標の達成に向けた授業形態。履修科目登録の上限設定、学習指導の充実。学生の主体的参加を促す授業方法を採用している。
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容は充実している。授業内容・方法とシラバスとの整合性はとれている。
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	医学科は厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)を行っている。看護学科では成績評価と単位認定は適切に行われている。単位制度の趣旨に基づく単位認定・既修得単位認定は適切に行われている。
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るためのワークショップや委員会を実施している。

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標の達成に向けた授業形態を採用し、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導、教育目標の達成に向けた授業形態。履修科目登録の上限設定、学生の主体的参加を促す授業方法を目標とする。	医学部と病院を一体化した取り組み、ロールプレイによる全体の底上げ、クリニカルクラークシップの充実
中項目(2)	シラバスに基づいて、通常講義と臨床実習を中心とした授業を展開する。変更事由が発生した際は、修正したシラバスを掲示し学生に周知するとともに、対策を協議する。	ホームページやパンフレットによる周知、定期的な検証を指標にする。
中項目(3)	成績評価と単位認定は、筆記試験と実習内容により、総合的に判断している。教務委員会で審議、検討の上、教授会で最終決定している。本校の履修科目に該当するシラバスと照合し、教育内容・方法・評点を確認し審査を行う。	教育ユニット形成に着手し、医学教育推進講座をその核に据え、スタッフカンファレンスを行うことで、進捗の指標とする。
中項目(4)	授業内容や教育方法の適切性を、様々な委員会で検証する。また、父母後援会総会を通して会学生の父母にも情報公開し、授業評価アンケート結果を開示する。	アンケート調査（学生、父母）をその指標にする。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育目標の達成に向けた授業形態を採用し、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導、教育目標の達成に向けた授業形態である。履修科目登録の上限設定、学生の主体的参加を促す授業方法を目標とする。医学科は、講義では、各講座で作成した冊子や授業プリントを中心に授業を進めると同時に、症例などの提示では、スライドを使った視覚的授業が行われている。5年生の病棟臨床実習では、患者さんの協力のもと、病歴聴取、診察、検査所見などを記載し、回診、プレゼンテーション、教官との議論を通じて、臨床に根ざした医学的知識を学生が主体的に習得するよう工夫している。5年生、6年生の診療参加型臨床実習では、基本的に研修医と同じ動きで病棟診療に主体的に参加することで、より実践に近い臨床実習を行っている。採血、検査手技、診療方針の説明同意等、すべて立ち会う形で診療に参加している。	
中項目(2)	シラバスに基づいて、通常講義と臨床実習を中心とした授業を展開する。変更事由が発生した際は、修正したシラバスを掲示し学生に周知するとともに、対策を協議する。医学科では、教育カリキュラムの詳細な内容は、シラバスに明記され学内に向けて周知されている。また、対外的にも、授業カリキュラム編成の概略や、各講座の特色等は、各講座で作成したHPを通じて、閲覧可能となっている。シラバスに基づいて、通常講義と臨床実習を中心とした授業が展開されている。	
中項目(3)	成績評価と単位認定は、筆記試験と実習内容により、総合的に判断している。FD推進・教務委員会で審議、検討の上、教授会で最終決定している。本校の履修科目に該当するシラバスと照合し、教育内容・方法・評点を確認し審査を行う。医学科では、成績評価と単位認定は、筆記試験と実習内容により、総合的に判断している。本試験の受験が事情により叶わなかった者には追試験、不合格者には再試験を行っている。最終的な合否判定は、一度、FD推進・教務委員会で審議、検討の上、教授会で最終決定している。	
中項目(4)	授業内容や教育方法の適切性を、様々な委員会で検証する。また、医学部医学科父母後援会総会を通して学生の父母にも情報公開し、授業評価アンケート結果を開示する。医学科では、授業内容や教育方法の適切性を、カリキュラム検討委員会、FD推進・教務委員会、教授会等の機会に教育方法の検証を行っている。また、「医学教育ワークショップ」では学外講師を招いた講習会をはじめ、医学教育技法についての紹介や現在の教育方法に関する議論を行っている。これらのことを通じて、適時、授業内容の変更等を行っている。また、父母懇談会、医学部医学科父母後援会総会を通して学生の父母にも情報公開し、父母からの要望等の聴取を行った上、授業内容に反映させている。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

医学部看護学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	医学科では、教育目標の達成に向けた授業形態を採用し、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導を行っている。看護学科では、教育方法および学習指導は適切である。教育目標の達成に向けた授業形態。履修科目登録の上限設定、学習指導の充実。学生の主体的参加を促す授業方法を採用している。
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容は充実している。授業内容・方法とシラバスとの整合性はとれている。
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	医学科は厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)を行っている。看護学科では成績評価と単位認定は適切に行われている。単位制度の趣旨に基づく単位認定・既修得単位認定は適切に行われている。
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るためのワークショップや委員会を実施している。

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育目標の達成に向けた授業形態を採用し、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導、教育目標の達成に向けた授業形態。履修科目登録の上限設定、学生の主体的参加を促す授業方法を目標とする。	医学部と病院を一体化した取り組み、ロールプレイによる全体の底上げ、クリニカルクラークシップの充実
中項目(2)	シラバスに基づいて、通常講義と臨床実習を中心とした授業を展開する。変更事由が発生した際は、修正したシラバスを掲示し学生に周知するとともに、対策を協議する。	ホームページやパンフレットによる周知、定期的な検証を指標にする。
中項目(3)	成績評価と単位認定は、筆記試験と実習内容により、総合的に判断している。教務委員会で審議、検討の上、教授会で最終決定している。本校の履修科目に該当するシラバスと照合し、教育内容・方法・評点を確認し審査を行う。	教育ユニット形成に着手し、医学教育推進講座をその核に据え、スタッフカンファレンスを行うことで、進捗の指標とする。
中項目(4)	授業内容や教育方法の適切性を、様々な委員会で検証する。また、父母後援会総会を通して会学生の父母にも情報公開し、授業評価アンケート結果を開示する。	アンケート調査（学生、父母）をその指標にする。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科では専門基礎科目や専門教育科目では、Moodleを用いた小テストや技術習得に必要な教材をWeb配信し、自宅や学内で予習・復習を自動的に簡便に行える教育方法を実践している。学生の理解度や技術習得状況を把握し、双方向の教授活動につながっている。また、看護必修科目の演習において、学習者中心の教育を意識し、看護実践力の向上を目指してシミュレーション教育を取り入れている。	既出1-MN2 平成27年度看護学科学修ガイド
中項目(2)	看護学科では、シラバスに基づいた授業の展開を基本にしている。変更事由が発生した際は、修正したシラバスを掲示し学生に周知するとともに、事務に書類を提出し承諾を得る。休講する場合は休講届けを提出し補講申請の手続きをとり規定の講義時間を実施している。	既出1-MN2 平成27年度看護学科学修ガイド
中項目(3)	看護学科では、シラバスに示した成績評価基準と方法に基づいて定期試験や課題提出等による成績評価を行っている。単位認定は教務委員会で審議したあと教授会議において単位認定を実施している。既習得単位認定は申請された科目のシラバスを取り寄せ、本校の履修科目に該当するシラバスと照合し、教育内容・方法・評点を確認し審査を行う。最終的に教授会議で単位認定に関する審議を行う。	既出1-MN3 看護学科案内
中項目(4)	看護学科ではFD委員会が主催して、外部講師による「看護教員の能力開発とキャリア支援」の講演会を開催し、教員の教育力の向上を図った。またFD委員会では学生による授業評価アンケート結果を開示する。また、科目責任者はアンケート結果をもとに授業を振り返り、次年度に向けた対策をまとめ提出し授業改善を図っている。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目 (評価の基準): 4-3. 教育内容・方法・成果 (教育方法)

薬学部

I. 中項目(点検・評価項目)・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・実習・実験等の)採用。学生の主体的参加を促す授業方法。
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実。
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)。単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実施を検討する。	該当授業科目の設置
中項目(2)	授業科目を関連性および順次性によりナンバリングを行う。	授業ナンバーのシラバスおよびカリキュラムマップへの記載
中項目(3)	現在の厳正な成績評価を継続する。	項目別配点表、成績評価根拠資料の保管
中項目(4)	本大学内において薬学教育に関する講演会やワークショップを実施し、学部教員全体でさらなる教育改善を押し進める。	学生による授業評価アンケートで、各教員の教育改善度や授業方法の向上度合いを図る。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	1年次開講科目の早期臨床体験Iでは、スモールグループディスカッションを取り入れた授業形態を取り入れている。4年次の実務実習事前教育では、PBLを取り入れた授業形態を実施している。	4-3-P1 平成27年度(2015年度)シラバス(薬学部)
中項目(2)	平成25年度入学生から適用するカリキュラムにおいて、授業科目を9分野(物理、化学、生物、衛生、薬理、薬剤、実務、総合、アドバンスト)分類し、開講年次順に番号を附して分類した科目番号一覧表を学習ガイドに掲載した。また、該当授業科目のシラバスにも科目番号を記載した。	既出4-1-P1 平成27年度(2015年度)学修ガイド(薬学部) 既出4-3-P1 平成27年度(2015年度)シラバス(薬学部)
中項目(3)	前年度と同様に、厳正な成績評価を継続している。	既出4-3-P1 平成27年度(2015年度)シラバス(薬学部) 4-3-P2 平成26年度(2014年度)第4回教授会資料 4-3-P3 平成26年度(2014年度)第10回教授会資料 4-3-P4 薬学部成績評価根拠資料
中項目(4)	学部教育改善のために、平成26年度中に2回の薬学部FD講習会を開催した。	4-3-P5 平成26年度(2014年度)第6回教授会資料

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目 (評価の基準): 4-3. 教育内容・方法・成果 (教育方法)

スポーツ科学部

I. 中項目(点検・評価項目)・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	・教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 ・履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 ・学生の主体的参加を促す授業方法
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	・厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) ・単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	・学生の主体的参加を促す授業方法が多く授業で行われている。	・授業方法を調査し、学生の主体性を促す授業が専門の授業で50%以上である。
中項目(2)	・今後もシラバスの内容が充実し、授業内容・方法とシラバスの整合性が十分にとれている。	・これまで通りシラバスチェックを厳格に行う。
中項目(3)	・引き続き厳格な成績評価を行っている。	・これまで通りシラバスにおいて評価方法・評価基準を明示し、成績評価を行う。
中項目(4)	・引き続き授業内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施をしている。	・これまで通り授業アンケートによる授業改善報告書の作成を行う。また、研修の回数を倍増する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	・教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)は、適切に開設されている。 ・履修科目登録の上限設定は、「1年間に46単位を超えてはならない」と学習ガイドに明記している。 ・学生の主体的参加を促す授業方法は、各教員に任されているが、講義科目以外の実験・実習、ゼミ・演習、実技などにおいては、多く行われている。(1-G1 130・139・140・143)	既出1-G1 平成27年度学修ガイド スポーツ科学部 既出4-2-G2 平成27年度シラバス スポーツ科学部
中項目(2)	・シラバスチェックは、教務委員およびFD・SD委員会、共通教育センター委員により、シラバスチェックを行い、修正依頼を行うなどして、シラバス内容の充実に努めている。 ・授業改善報告書の中で「シラバスに示した到達目標に対する自身の評価と学生の到達状況について」という項目を設定し、各教員はもとより、FD・SD委員会において、授業内容・方法とシラバスの整合性が取れているか確認ができるようになっている。	既出4-2-G3 福岡大学スポーツ科学部授業アンケート報告書 一平成22年からの歩み一
中項目(3)	・福岡大学学則の成績考査規程によって、成績評価、単位認定が厳格に規定されている。講義科目については定期試験を行い、60点を単位認定の最低限度としている。ゼミ・演習や実験・実習などはレポート等の提出で評価し、実技は出席を考慮して、実技試験等を行って評価している。各科目のシラバスにおいても成績評価基準とその方法が明記され、単位認定が適切に行われている(1-G1 200頁、4-3-G1 392~413頁)。	既出1-G1 平成27年度学修ガイド スポーツ科学部 既出4-2-G2 平成27年度シラバス スポーツ科学部 4-3-G1 平成27年度シラバス 学部共通
中項目(4)	・授業内容及び方法を改善を図るための組織的研修は、教育開発支援機構が主催している教育改善活動フォーラムやEラボなどへの参加を促す案内を行っている。 ・学部内のFD・SD委員会が、「授業アンケートからの授業改善への取り組み」をまとめ、教授会で報告している。報告書の中では、全教員の改善努力、さらなる授業改善に努めている様子が認められる。	4-3-G2 第9回教育改善活動フォーラムの開催について 4-3-G3 平成27年度 第3回「Eラボ」開催のお知らせ

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

人文科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態の採用、履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体的参加を促す授業方法、研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、履修単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	博士課程前期と後期の継続的指導体制の構築	博士課程前期に「特選題目研究」（案）とする授業科目（選択）を設置する。
中項目(2)	シラバスの内容と実際の授業内容の整合性を高める。	学年歴中に「授業計画作成期間」（仮称）を設けるなど、シラバスの効果を高める措置を講じる。
中項目(3)	学生の履修状況等に関する教員間の情報交換を促進する。	各専攻毎に、定期的な履修・成績評価会議（仮称）を設置する。
中項目(4)	研究科FD委員会（人文学部FD委員会と連動）を設置し、定期的な研究・研修システムを構築する。	研究科FD委員会の設置と評価・点検項目の設定

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	検討準備中	研究通常委員会にて研究科長より提案・検討依頼（予定）：議事録（平成27年11月）
中項目(2)	検討準備中	
中項目(3)	検討準備中	
中項目(4)	検討準備中	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

法学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導計画にもとづく研究指導・学位論文作成指導
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既習得単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導が行われていること。
中項目(2)	現状を維持する。	シラバスに沿った研究指導や授業が行われていること。
中項目(3)	現状を維持する。	シラバスに評価方法・評価基準が明記されており、それに基づいて厳格な成績評価が行われていること。
中項目(4)	大学院FD推進会議を通じて第3回FDアンケートの実施を目指す。	第3回FDアンケートの実施。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	目標である「現状」は維持されている。	4-3-JD 13 シラバス、4-3-JD 14 通常委員会資料（平成27年2月24日）修了判定、4-3-JD 15 修士論文発表会案内、4-3-JD 16 新入生ガイダンス案内
中項目(2)	目標である「現状」は維持されている。	4-3-JD 13 シラバス、既出3-JD 9 福岡大学大学院FDアンケート報告書2014
中項目(3)	目標である「現状」は維持されている。	4-3-JD 13 シラバス、既出3-JD 9 福岡大学大学院FDアンケート報告書2014
中項目(4)	第3回FDアンケートの実施を推進する。	4-3-JD 17 福岡大学FD推進会議規程

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

経済学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容に充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価、単位制度の趣旨に基づく単位設定の適切性、既修単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育方法および学習指導方法の適切性について、FD委員会や通常委員会にてさらに検討を進める。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。
中項目(2)	授業評価アンケート等を利用し、シラバスに基づいた授業が行われていることの確認を徹底する。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。
中項目(3)	成績評価と単位認定の適切性について、FD委員会や通常委員会にてさらに検討を進める。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。
中項目(4)	FD委員会や通常委員会において、教育成果に関する定期的な検証を行うとともに、教育課程や教育内容・方法のさらなる改善を進める上で必要な諸施策について検討を行う。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	現状維持に努め、さらなる向上を目指している。	既出1-ED3平成27年度大学院便覧
中項目(2)	現状維持に努めると同時に、シラバスと授業内容・方法の整合性を確認できるシステム作りを検討している。	既出1-ED3平成27年度大学院便覧
中項目(3)	大学院前期課程において、成績評価は試験によるという原則の再確認を行っている。	既出1-ED2FD委員会会議資料
中項目(4)	大学院生に対する授業評価アンケートを実施し、経済学研究科に進学する学生の特徴を分析した。今後は、この分析結果を教育課程編成の改善につなげていきたい。	4-Ed7アンケート調査資料

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

商学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導および学位論文作成指導への組織的対応
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成とその内容の充実、公表
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	シラバスで明示化された基準・方法による適切な成績評価
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	教育改善(FD)に向けての組織的な対応

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	博士課程前期および後期における学位論文指導の充実	学位論文指導
中項目(2)	学生のより適切な教育のためのシラバスの充実	シラバスの充実
中項目(3)	より適切かつ厳格な成績評価	成績評価
中項目(4)	大学院FD推進委員会をつうじて、引き続きFDアンケートを実施していくこと。	FDアンケート実施

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程前期においては、修士論文中間発表会および修士論文発表会で主査及び副査やその他商学研究科教員から、報告及び質疑、プレゼンテーションの方法も含めて指導し、より質の高い修士論文の作成を目指している。博士課程後期においては、期間内に博士論文が作成できるように主査を通じて指導している。学位の申請を希望する者から申し出があり、提出された博士申請論文については論文審査事前検討委員会を設置し、当該論文についてきめ細かい指導を行っている。	
中項目(2)	商学研究科では、学生のより適切な教育のためにシラバスを充実させるべく、公表する前に学務委員がすべてのシラバスについて点検を行っている。ただし、学務委員が作成したシラバスについては、研究科長が点検している。	
中項目(3)	成績評価については、担当教員がより適切かつ厳格な成績評価になるよう対応している。	
中項目(4)	学生へのFDアンケートについては、商学研究科単独では実施が難しいので、大学院FD推進委員会を通じて引き続きFDアンケートを実施していく。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

理学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導、教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	博士課程前期の主要科目と後期の研究指導科目に基づいた学生の指導を行っている。
中項目(2)	現状を維持する。	学生が常に閲覧可能なWebシラバスに、授業内容と計画、到達目標、成績評価基準および方法、履修上の注意および準備学習が記載されている。
中項目(3)	現状を維持する。	Webシラバスに成績評価の方法および基準が明記され、修士論文発表会と博士学位申請論文公聴会が公開されている。
中項目(4)	現状を維持する。	大学院FD委員会からFD活動に関する報告書が提出されている。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	博士課程前期の主要科目と後期の研究指導科目に基づいた学生の指導が行われている。	4-3-SD1 Webシラバス
中項目(2)	学生が常に閲覧可能なWebシラバスに、授業内容と計画、到達目標、成績評価基準および方法、履修上の注意および準備学習が記載されている。	既出 4-3-SD1 Webシラバス 4-3-SD2 平成27年度大学院シラバス作成のためのガイドライン
中項目(3)	Webシラバスに成績評価の方法および基準が明記され、修士論文発表会と博士学位申請論文公聴会が公開されている。	既出 4-3-SD1 Webシラバス 既出 4-3-SD2 平成27年度大学院シラバス作成のためのガイドライン 4-3-SD3 理学研究科通常委員会議事録（平成27年2月23日）
中項目(4)	大学院FD委員会からFD活動に関する報告書が提出された。	既出 3-SD11 福岡大学大学院FDアンケート報告書2014

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

工学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	年次ごとの履修科目の明確化	各専攻での履修ガイドラインの作成
中項目(2)	シラバスの記載内容を改善し充実させる	授業アンケートの実施
中項目(3)	厳格な成績評価を実施する	授業アンケートの実施
中項目(4)	工学研究科全体で教育内容、教育成果を検討する	教育内容を検討する委員会設置と報告書公表

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教育内容検討会議で、工学研究科学生の単位履修状況を調査し、取得単位数を調べた。その結果、修了要件ぎりぎりの学生が多数いることが明らかになった（既出4-1-TD1）。年次で修得が決まっている特別研究及び特別演習を除いた、履修科目の習得単位数及び目標について検討を行ったが、科目履修は指導教授の指導で決まっている場合が多く、研究科全体での推奨修得単位数の議論には至っていない。	既出4-1-TD1 教育内容検討会議(平成27年4月22日開催)資料抜粋
中項目(2)	シラバス記載内容は、担当教員が作成後、専攻主任、学務委員、研究科長が確認を行う仕組みを作り、それによって改善されている（4-3-TD1）。	4-3-TD1 大学院シラバス(授業計画書)作成に伴う科目別入稿内容の確認作業について(お願い)、工学研究科シラバス確認作業報告書、大学院シラバス(授業計画書)作成のためのガイドライン
中項目(3)	研究指導教員及び科目担当教員が、シラバスの評価の基準に従って採点を行い、成績評価を実施している。これまで、成績評価に関して学生からの質問、苦情はなく、厳格に成績評価が行われている（4-3-TD2）。	4-3-TD2 福岡大学HP 電子シラバス (https://acex.jsysneo.fukuoka-u.ac.jp/kyogaku/syllabus/syllabus/public_html/index.php)
中項目(4)	工学研究科に教育内容検討会議を組織し、4月に研究科全体で教育内容等について検討した（既出4-1-TD1）。	既出4-1-TD1 教育内容検討会議(平成27年4月22日開催)資料抜粋

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

医学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院)
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実、授業内容・方法とシラバスの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価、単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性、既修得単位の認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を博るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	指導教員・補助指導教員による教育体制のより有効的運用	シラバス再編と平行した担当教員割り当ての改善
中項目(2)	シラバスの実質化	シラバスの再編
中項目(3)	授業評価方法の改善	中間発表会、アンケート実施
中項目(4)	教育効果検証法の改善	スキルアップセミナー、FDの開催

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成26年度中に博士課程小委員会で議論を重ね、コースワーク、リサーチワークの教育日程の見直しを行った。（既出4.1-MD1） その結果、D資格を有する教員（研究指導補助教員）が講義のコマを担当できるように共通科目のコマ数を倍増し、若手教員のコースワークへのより積極的な関与を促した。（既出1-MD2）	既出4.1-MD1 平成26年度医学研究科博士課程小委員会議事録 既出1-MD2 平成27年度 大学院医学研究科博士課程シラバス
中項目(2)	コースワーク・リサーチワークの実施がより効率的に行われるためのカリキュラムの見直しを行い、それを反映したシラバスの改正を行った。（既出1-MD2, 1-MD3）	既出1-MD2 平成27年度 大学院医学研究科博士課程シラバス 既出1-MD3 福岡大学大学院学則一部改正について
中項目(3)	平成26年度の2年次大学院を対象に、平成27年2月16、19日の両日に亘り「中間発表会」を開催した。（4.3-MD1） また、平成26年度6月に全学レベルでのアンケートが実施されたが、これに加え、平成27年度には、平成26年度学位取得者を対象にアンケートを実施し、コースワークのみならずリサーチワークを完全に修了した時点でのフィードバックを得ることができた。（4.3-MD2, 4.3-MD3）	4.3-MD1 平成26年度 大学院医学研究科博士課程研究中間発表会報告書 4.3-MD2 福岡大学大学院FDアンケート報告書2014 4.3-MD3 平成26年度 医学研究科博士課程修了者へのアンケート調査結果
中項目(4)	研究倫理関連で2つのセミナーを開催した。実験データの健全性を保つための方策や画像データ処理時の落とし穴・留意点なども紹介され、技術面でも大変有用な内容であった。（既出1-MD7） 教育改善に関するFDは開催されていない。	既出1-MD7 セミナー案内文書（2回分）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

薬学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 学習指導の充実 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(修・博士)
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	毎年自己評価し、その結果を公表している	Webで公開
中項目(2)	シラバスと実際の授業、実習に乖離がない。	評価方法と基準
中項目(3)	公正厳格に成績評価されている。	エビデンスの収集
中項目(4)	学生による授業評価の方法論が構築されている。	アンケートの匿名性と効果

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	毎年自己評価し、その結果は、Web上で公表している	4-3-P1 平成 26 年度自己点検・評価報告書 (http://www.fukuoka-u.ac.jp/disclosure/evaluation/pdf/self-evaluation_3.pdf)
中項目(2)	シラバスに沿って授業や実習が行われている。	既出1-P5 福岡大学FUポータルWebシラバス
中項目(3)	エビデンスの収集も十分に行われており、成績についても公正に評価されている。	既出1-P3 既出1-P5
中項目(4)	学生による授業評価については、大学院については実行されていない。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目 (評価の基準): 4-3. 教育内容・方法・成果 (教育方法)

スポーツ健康科学研究科

I. 中項目(点検・評価項目)・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用, 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実、学生の主体的参加を促す授業方法, 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(大学院)
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実, 授業内容・方法とシラバスとの整合性
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示), 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性, 既修得単位認定の適切性
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	さらに適切性を高めるように努める。	通常委員会で審議・了承し, 検証結果を議事録に残す。
中項目(2)	研究と表裏一体である大学院の特別研究ではシラバスに基づいた授業を行うのは難しいが, 非専修科目については鋭意努力する。	通常委員会で審議・了承し, 検証結果を議事録に残す。
中項目(3)	現在も適切に行われており, 現状を維持するように努める。	通常委員会で審議・了承し, 検証結果を議事録に残す。
中項目(4)	FD小委員会による学生を対象にした授業や指導内容についての調査を継続して行う。	通常委員会で審議・了承し, 検証結果を議事録に残す。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	講義形式の特修科目、演習形式の特講や特別研究、スポーツ医学部門を中心とした実習など教育目標に応じて適切に配置されている。しかし、文系をはじめ理系においても実験を方法論としない専修もあるため実験は配置されていない。また、履修科目登録の上限は特に定めていないが、今後も上限を定める予定はない。 主体的参加が前提になっている科目としては「学外研究及び研修Ⅰ・Ⅱ」があり、学外でのフィールドワークやコーチングの現場を実体験することを主目的としている。この科目では実習場所を学生が独自に定めることになっている。今後もこの科目の履修者拡大を図る予定である。	既出 1-GD1 大学院便覧 (開講科目一覧)
中項目(2)	年度末に次年度の全科目のシラバスが作成され、学務委員が中心となりその内容をチェックし、内容の充実のために適切なアドバイスを行うなど適切に行われている。しかしながら、作成されたシラバスと実際の授業内容との整合性はチェックされていない。研究指導の計画性に関しては、年度当初に定められた特別研究、およびそれを補完する特講のシラバスに沿った研究指導が適切に行われている。ただし、学会発表や中間報告会などで指摘された点を修正・検討するため事実上計画通りに実施するのは困難な状況である。	既出4-GD3 福岡大学大学院シラバス
中項目(3)	シラバスに成績評価法や単位認定の基準が明示されており、これに基づき適切に評価が行われている。また、すべての成績評価結果は年度末の通常委員会において審議され、決定されるなど成績評価も適切に行われている。	既出4-GD3 福岡大学大学院シラバス
中項目(4)	研究科長、大学院委員、学務委員からなるFD小委員会が毎年12月に学生を対象に、授業や指導内容についての満足度を調査し、結果を通常委員会で公表している。これをもとに各教員が次年度の教育内容・方法の改善に役立っている。この活動は今後も継続して実施する予定である。しかし、教授内容を向上させるための組織的な研修などは行われていない。	4-GD4 平成26年度スポーツ健康科学研究科FDアンケート調査(H26・12・17通常委員会で結果報告)

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-3. 教育内容・方法・成果（教育方法）

法曹実務研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
中項目(2)	(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
中項目(3)	(3)成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)
中項目(4)	(4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現在の履修科目登録の上限設定、学習指導状況を維持、継続する。	現時点の水準が維持されているか否か。
中項目(2)	現在のシラバスの作成と内容充実の現状を維持、継続する。	現時点の水準が維持されているか否か。
中項目(3)	現在の厳格な成績評価の現状を維持、継続する。	現時点の水準が維持されているか否か。
中項目(4)	現時点における授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施を維持し、さらに発展させる。	現時点の水準が維持されており、さらに新たな研修等が実施されているか否か。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	満足すべき状況にある。	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド34-36頁、既出1-法科2 法科大学院パンフレット7頁
中項目(2)	満足すべき状況にある。	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド62-237頁
中項目(3)	満足すべき状況にある。	既出1-法科3 評価報告書94-96頁、既出1-法科1 学修ガイド38-39頁
中項目(4)	満足すべき状況にある。	既出1-法科3 評価報告書50頁、既出1-法科4 平成26年度FD委員会活動報告書3-5頁

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

人文学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育成果の測定が可能な状態	教育成果を測る指標の開発
中項目(2)	現状と同様、適切な学位授与を行う	厳格な成績評価の実施

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学部としては教育目標に沿った教育成果を具体的に判断する指標を明確に定めて測定していない。各学科ごとに教育内容が異なり、統一的な教育評価指標を作成することは困難な状態である。今年度のFD委員会にて検討を開始する予定である。	
中項目(2)	各学科は学則に則って、必要な単位取得を前提とした卒業認定を行っている。歴史学科、日本語日本文学科では、卒業論文を必修としているため、単位の取得に加えて卒業論文の評価が卒業認定の条件となっている。すべての学科の卒業論文・卒業研究の評価にあたっては、主査・副査による審査や、発表会・口頭試問を義務付けることによって、複数教員による評価がなされている。卒業認定は、教授会によって決定されている。	学則 人文学部の卒業論文履修上の注意事項

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

法学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	今後も、授業アンケートの検証・改善を定期的に行う。	授業アンケートの適切な改善
中項目(2)	今後も、全学的な学位授与基準に基づいて学位手続きを適切に進める。	学位授与基準・手続きの適切性

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	前期および後期に各1回、授業アンケートを実施している。また、平成27年3月卒業生に対して卒業生アンケートを実施した。	平成26年度卒業生アンケート用紙、平成26年度卒業生アンケート結果
中項目(2)	学則及び学科履修規程に定めた要件を満たした卒業予定者に対して、教授会の議を経て適切に学位を授与している（学則38条）。	学則、学科履修規程、法学部教授会資料（平成27年2月19日付、同年3月12日付、同年9月2日付）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

経済学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	①卒業後の評価(卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	①学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	卒業生アンケートは引き続き実施する。さらに教育成果の検証方法を検討する。	卒業生アンケート集計結果、FD委員会議事録に検証結果が残る。
中項目(2)	現状維持に努める。	教授会議事録に審議結果が残る。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成27年3月も卒業生アンケートを実施した。 FD委員会で教育成果の検証方法を検討することにした。	4-4-E1 平成27年1月30日教授会議事録 4-4-E2 卒業生アンケート(集計結果) 既出 3-E12 教授会議事録 既出 3-E13 平成27年度事業計画の実行について
中項目(2)	学位授与(卒業・修了認定)は、教授会の議を経て適切に行われている。	4-4-E3 平成27年2月19日教授会議事録 4-4-E4 平成27年3月12日教授会議事録

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

商学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指数の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性、学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院・専門職)

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	成績評価の度数分布表の開示を目指す。	成績評価の度数分布表
中項目(2)	商学部における論文ゼミナール登録者の内、卒業論文を提出しない学生について、その原因と対策を検討するとともに、商学部第二部に論文ゼミナールを設置することの是非を検討する。	卒業論文を提出しない学生についての原因と対策および商学部第二部に論文ゼミナールを設置についての検討の実施

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	科目ごとの成績評価の度数分布表は、成績評価の適切性を見るために有効であると思われる。現時点では教員が個別に確認することはできるが、教授会において開示することは検討されていない。しかし、非公式に数人の教員に実施に関する意見を尋ねたところ、多くは教授会での開示に肯定的な意見であった。	
中項目(2)	論文ゼミ登録者に占める論文提出者の実数と比率は、2012年が495人、450人、90.9%、2013年が478人、404人、84.5%、2014年が、501人、432人、86.2%であった。その原因としては、既に卒業要件単位数を満たしているがゆえに卒業論文を提出しなくても卒業できる学生が多数いること、卒業論文の作成と就職活動を両立させることに困難を感じている学生が多数いること等が指摘される。その対策についてはまだ議論されていない。商学部第二部における論文ゼミナールを設置については、教学問題検討委員会で審議されているが、教授会に答申案を提出するまでには至っていない。	4-4C1商学部2年ゼミ卒論提出率推移表.xlsx

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

理学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	ポートフォリオなど教育評価方法の検討	検討を実施する科目数
中項目(2)	現状の単位に基づく学位授与法を維持	各年次の学生の単位修得状況と卒業、留年の相関

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	教職科目については、ポートフォリオ（教職履修カルテ）の導入が進んでいる（4-4-S1 5頁）が、専門科目については科目ナンバリングの検討を始めようとしている段階である（4-4-S2）。	4-4-S1 平成26年度教職課程履修の手引き 4-4-S2 理学部教授会資料（平成27年9月8日）
中項目(2)	シラバスに示された成績評価基準で単位が与えられる（既出 4-2-S2）。さらに、単位に基づく学位授与が維持されている（4-4-S3）。	既出 4-2-S2 平成27年度シラバス（理学部） 4-4-S3 理学部教授会議事録、資料（平成26年9月9日、平成27年2月19日、3月12日）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

工学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習効果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	JABEEまたはJABEEの基準に準拠した厳格的な教育を堅持し、修学指導を強化するなど、教育効果の向上に努める。	JABEE関連資料。修学指導関連資料。進級率・就職率。
中項目(2)	特待生選考基準など、関連規程の改正を行う。	規定改正に関する記録。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	入学生の学力が低下している状況の中、高い就職率で卒業生を輩出している。	4-4-T1 就職率関連資料
中項目(2)	特待生の選考基準を改正した。	4-4-T2 工学部特待生選考基準(新)

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

医学部医学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	医学科は、全国の医療機関で臨床医として高い評価を得ている。看護学科は、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用。学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	医学科では卒業判定は適切に行われている。看護学科では学位授与基準、学位授与手続きの適切性。学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院・専門職)

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	全国の医療機関で臨床医、看護師として高い評価を得ている。	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を指標とする。
中項目(2)	毎年の医師国家試験では、100人以上の医師を誕生させており、全国の医療機関で患者に寄り添う良き臨床医として、高い評価を得ているが、これを継続する。	病棟修練を国際基準に合わせ、国家試験合格率を上向かせる。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	医学科は、全国の医療機関で臨床医として高い評価を得ている。全国で活躍しており、我が国の医療体制の維持、発展に貢献している。また、研究者や医療行政で活躍する人材も輩出している。成果として、恒常的な教育内容の検証と改革により、教育内容がマンネリズムに陥ることなく、常に医学の進歩や社会情勢を踏まえた教育内容の提示が可能な状況である。また、時代に即応できる医師の養成に貢献していると考えられる。さらに、本医学部一般入試の競争率は、極めて高く、関東、関西方面からの入学応募も多数あることから、本大学医学部の教育方針に対する社会の一定の評価の現れと考えられる。	
中項目(2)	医学科は、成果として、毎年の医師国家試験では、合格率に関しては最上位の成績ではないが、毎年、100人以上の医師を誕生させており、一定の成果と評価を得ている。福岡大学出身の医師は、全国の医療機関で患者に寄り添う良き臨床医として、高い評価を得ており、我が国の医療体制の維持、発展に貢献している。医師国家試験の合格率の上昇が平成27(2015)年より明らかになったが、これを継続する必要があるので努力している。	・4-MM3「国家試験合格状況」

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

医学部看護学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	医学科は、全国の医療機関で臨床医として高い評価を得ている。看護学科は、学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用。学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	医学科では卒業判定は適切に行われている。看護学科では学位授与基準、学位授与手続きの適切性。学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院・専門職)

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	全国の医療機関で臨床医、看護師として高い評価を得ている。	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を指標とする。
中項目(2)	毎年の医師国家試験では、100人以上の医師を誕生させており、全国の医療機関で患者に寄り添う良き臨床医として、高い評価を得ているが、これを継続する。	病棟修練を国際基準に合わせ、国家試験合格率を上向かせる。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科では、看護基礎教育のカリキュラムは講義、演習、実習が体系的に学べるように配当している。最終的な学習成果は臨地実習の評価に依拠している。8つの専門領域(基礎、成人、老年、精神、母性、小児、在宅、地域)の実習評価は、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現の4つの観点で評価指標を作成し評価している。それぞれの実習後に学生の自己評価をもとに面接し、学習成果の評価を行っている。成績不良者に対しては、実習目標を達成できるようフォローアップしている。4年間の看護基礎教育を評価する目的で、文部科学省の「大学卒業時の到達目標」をもとに卒業時アンケートを行っている。調査結果はFD委員会が集約して看護学科教授会議で報告し、教育上の課題を共有している。平成26年度までに498名が本学科を卒業し、大学病院や地域の医療施設、保健福祉センター、養護教諭として活躍している。卒業生を受け入れた施設や医療機関から高い評価を得ている。	
中項目(2)	看護学科の学士課程は、修業年限の3月までに、卒業に必要な所定の単位を修得した学生に対し、医学部看護学科教授会で卒業の認定を行う。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

薬学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	ルーブリック評価の導入検討	ルーブリック評価用配点表の作成
中項目(2)	平成25年版薬学教育モデル・コアカリキュラムで示された6年次卒業時に必要とされる「10の資質」を考慮に入れた学位授与の実施	ディプロマポリシーの改訂

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	現在、特別実習のポスター発表の評価に用いるルーブリック評価表の作成を行っている。	
中項目(2)	学位授与基準に「10の資質」を反映させるべく、「10の資質」の最終的評価方法について検討している。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

スポーツ科学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	・学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 ・学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性、

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	・学生の学習成果を測定するための評価指標が開発され適用されている。	・シラバスの中に明記されていること
中項目(2)	・学位授与基準、学位授与の手続きが適切に行われている。	・現状の通り学位授与基準が明示されていること

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	・教育マネジメントサイクルの一環として、学部独自の授業アンケートを行い、教育効果の測定、教育目標の達成度を、教員個々が確認して、授業改善を行っている。また、授業中に行なわれるミニツッパーパーやレポートなどによって、学生の理解度を確認している。学習成果を測定する評価指標の開発は、平成27年度も行われていない。 平成26年度の就職状況は、教育関係17.3%、公務員13.5%、サービス業20.6%、卸売・小売業18.6%に就職している。就職先からの評価は明らかになっていないが、学部ガイドの卒業生メッセージや年2回行われている「先輩と語る」という行事において、卒業生の活躍や評価が述べられている(1-G4 14～17頁)。	既出4-2-G3 福岡大学スポーツ科学部授業アンケート報告書ー平成22年度からの歩みー 既出1-G4 平成27年度「スポーツ科学部」ガイド
中項目(2)	・学位授与基準、学位授与手続きは福岡大学学則第4節「学習終了の認定及び卒業」、「学科履修規定」および「成績考査規定」に明示され、適切に行われている(1-G1 23・130・139・140・200～202頁)。	既出1-G1 平成27年度学修ガイド スポーツ科学部

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

人文科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	各専攻前期課程修了者の7割以上が関係専門職就職(非常勤を含む)もしくは後期課程への進学する。	関係専門職資格取得者及び就職者数、後期課程進学者数
中項目(2)	課程博士の学位授与を増やす。	毎年、専攻毎に1名以上の課程学位(博士)を授与する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各専攻毎に努力を傾けているが、年度途中ということもあり、資料なし。	
中項目(2)	本年度中、3専攻(歴史、英語英文学、教育・臨床心理)で各1名ずつ博士学位審査申請者があり、うち1名(教育・臨床心理)に学位授与、2名が審査中。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

法学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	学位論文の提出状況とその質の維持。修了者が専門職業人としての進路を確保すること。
中項目(2)	現状を維持する。	厳格な審査基準に基づく適切な学位授与の実施。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	目標である「現状」は維持されている。	既出 4-3-JD 14 通常委員会資料（平成27年2月24日） [修了判定]，4-4-JD 19 [修了生進路先一覧]，既出 4-3-JD 15 修士論文発表会案内
中項目(2)	目標である「現状」は維持されている。	4-4-JD 20 修士学位申請取扱細則，4-4-JD 21 博士学位申請取扱細則，既出 4-3-JD 14 通常委員会資料（平成27年2月24日）[修了判定]

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

経済学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	教育目的に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用、学生の自己評価、卒業後の評価
中項目(2)	学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	授業評価アンケートの結果を分析し、より正しく学生の学習成果を測定できる評価指標の開発に努める。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。
中項目(2)	今後も引き続き、学位審査および修了認定の客観性・厳格性を維持できるよう、確認や検証に努める。	通常委員会議事録等に検討結果を残す。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学生アンケート調査を実施し、学生による研究科の評価を分析した。	既出4-ED7アンケート調査資料
中項目(2)	博士論文を提出する学生に対し、論文の類似度チェックを義務化することで研究者としての研究倫理の遵守義務を強調している。学位授与基準に対する内規についても、より明確な規程作りについて議論をしてきた。	4-ED8 通常委員会議事録 既出4-ED5 後期小委員会議事録

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

商学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	博士課程前期での入学者の標準年限での修了率および博士課程後期での課程博士論文審査合格者数
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与要件の明示化、組織的審査体制の構築の適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	入学者の標準年限での修了者の割合を100%に近づける	修了者の割合
中項目(2)	学位授与の要件および授与のプロセスを学生にいつそう周知するようにする	学位授与の要件および授与のプロセスの周知

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成25年度の博士課程前期入学者の標準年限での修了者（平成26年度修了者）の割合は入学者23人に対して20人であった。本年はこれを100%に近づける。	
中項目(2)	学位授与の要件および授与のプロセスは、新入生ガイダンスで周知するようにしているが、その他大学院便覧にも掲載している。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

理学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現状を維持する。	副指導教員制度が存在し、修士論文研究発表会と博士学位申請論文公聴会が公開されている。
中項目(2)	現状を維持する。	修士論文と博士学位申請論文の副査が2名以上で、修士論文研究発表会と博士学位申請論文公聴会が公開され、博士学位申請には具体的な指標がある。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	副指導教員制度が存在し、修士論文研究発表会と博士学位申請論文公聴会が公開されている（既出 1-SD3 86頁、199頁、4-4-SD1 6頁、22頁）。	既出 1-SD3 平成27年度大学院便覧 4-4-SD1 福岡大学理学部・理学研究科年報2013
中項目(2)	修士論文と博士学位申請論文の副査が2名以上で、修士論文研究発表会と博士学位申請論文公聴会が公開され（既出 1-SD3 86頁、199頁、4-4-SD1 6頁、22頁）、博士学位申請には具体的な指標がある（4-4-SD2）。	既出 1-SD3 平成27年度大学院便覧 既出 4-4-SD1 福岡大学理学部・理学研究科年報2013 4-4-SD2 各専攻学位申請申合せ

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

工学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習効果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	大学院生の就職先での評価を調査し、教育目標に反映させる。	外部評価委員会を設け、報告結果を公表する。
中項目(2)	学際的な研究を推進する体制を作る。	博士課程後期で他研究科の教授が副研究指導教授として参画できる制度を作り、運用する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	大学院卒業生の就職先での評価を調査する方法に関して、検討している（4-4-TD1）。	4-4-TD1 工学研究科自己点検・評価実施委員会(平成27年9月30日開催)資料及び議事録抜粋
中項目(2)	学内での他研究科と連携した学際研究を推進する方策を検討している（既出1-TD1）。	既出1-TD1 工学研究科自己点検・評価実施委員会(平成27年7月29日開催)資料及び議事録抜粋

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

医学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の自己評価、卒業後の評価
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続の適切性、学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	修了者による評価方法の導入	アンケートによるフィードバック
中項目(2)	主査の選考基準の見直し。不正監視の改善方法	改革小委員会等における学位審査基準・手順の全般的な再検討

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成26年度博士課程（医学）修了者に対するアンケートを行い、4年間の授業計画・実施方法・成果に対するフィードバックを得た。（既出4.3-MD） 修士課程（看護学専攻）では個々の授業評価はその都度行っているが、修了者へのアンケートはまだ行われていない。（4.4-MD1）	4.4-MD1 福岡大学医学研究科看護学専攻（修士課程）平成27年度（前期）授業に関するアンケート集計結果 既出4.3-MD3 平成26年度 医学研究科博士課程修了者へのアンケート調査結果
中項目(2)	不正監視に関しては、平成27年度学位論文より全ての学位申請者に対しiThenticateによる類似度判定が義務付けられることになった。（4.4-MD2） また、博士課程小委員会・修士課程小委員会でもこの点のみならず、学位論文の内容について、指導教員（及び研究指導補助教員）が責任を持って当たるように周知している。（4.4-MD3） 更に、全学レベルでの不正告発や申し立てに対する規程が整備され、不正監視の方法が強化された。（4.4-MD4 207～210頁） 現行の博士課程における主査制度（研究指導者自身が主査を務める）に関しては、博士課程小委員会で問題を提起し検討中であるが改正に至っていない。（既出4.4-MD3） 修士課程（看護学専攻）においては、大学院有資格者数が微増したものの十分とは言えない。	4.4-MD2 類似度判定ソフトウェア（iThenticate）による学位申請論文の判定作業実施について 4.4-MD3 平成27年度医学研究科博士課程小委員会議事録（平成27年9月9日分） 4.4-MD4 大学院便覧 4.4-MD5 看護学専攻 大学院担当教員名簿（平成27年度）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

薬学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(修・博士)

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	教育成果に関して、修了後の評価方法が提案されている。	外部評価者の導入
中項目(2)	学位授与の適切性が定期的に検証されている。	通常委員会の議題

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	本年度が薬学研究科博士課程の完成年度であり、卒業後の評価は次年度以降となる。ただし、現時点では、その評価方法を提案できていない。	
中項目(2)	学位授与の適切性を定期的に検証している。	既出 1-P1 4-4-P1 薬学研究科：博士課程並びに論文博士の審査に必要な研究業績及び研究歴の設定についての申合せ

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

スポーツ健康科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用, 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準・学位授与手続きの適切性, 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(大学院・専門職)

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	大学院では研究が主体であるため学部のような学習成果を測定することが難しいが、測定方法について検討する。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。
中項目(2)	現在も適切に行われており、現状を維持するように努める。	通常委員会で審議・了承し、検証結果を議事録に残す。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発はしていない。学生の自己評価や就職先の評価もしていない。また、卒業生からの評価も実施していない。	該当なし
中項目(2)	博士の学位授与基準はスポーツ健康科学研究科博士学位申請取り扱い細則に明示されており、これに基づいて審査が適切に行われている。研究計画書(中間審査)および最終論文の審査では投票が行われ、前者は1/2以上、後者は2/3以上の可が必要となっており、客観的な判断といえる。また、最終審査では積極的に外部の審査員を採用しており、審査の客観性を高める努力を行っている。今後もこの方針を継続していく予定である。	既出 1-GD1 大学院便覧 既出4 - GD1 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士学位申請取扱細則

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 4-4. 教育内容・方法・成果（成果）

法曹実務研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
中項目(2)	(2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II. 到達目標・指標(平成30年度までの到達目標及び指標)

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現在の学習成果測定の評価基準を維持、継続する。	現時点の評価基準の水準が維持されているか否か。
中項目(2)	現在の学位授与基準、学位授与手続を維持、継続する。	現時点の学位授与基準、学位授与手続の水準が維持されているか否か。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	満足すべき状況にある	既出1-法科1 法科大学院学修ガイド35頁、52頁、既出1-法科3 評価報告書98頁
中項目(2)	満足すべき状況にある	既出1-法科3 評価報告書99頁

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）： 8. 研究活動

人文学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究活動の活性化	科研費の応募件数、採択件数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	指標となっている科研費の応募数は、人文学部全体で、平成24年度9件、25年度11件、平成26年15件、平成27年16件であり、このうち採用数は、24年度3件（金額2267万円）、25年度6件（1982万円）26年度5件（2157万円）、27年度10件（2734万円）であり、採択率は各々、24年度33.3%、25年度54.55%、26年度33.3%、27年度62.5%となっている。採用件数は福大全体の8%程度であり、理系学部（10-41%）に比すれば少ないものの、他の文系学部の1-2%に比べれば多い。各年ごとでは特徴は言いにくいところもあるが、全体的傾向としては、募集数、採択数ともに若干の増加傾向がみられると言えよう。	

法学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	①研究活動方針の適切性、②研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	科研費等外部資金を、毎年、継続的に獲得できるようにする。	科研費等外部資金の毎年の獲得。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	科学研究費補助金（以下「科研費」という。）など競争的研究資金の獲得状況に関しては、平成27年（2014）年度は5件である（平成27年度科研費採択者一覧）。なお、科研費採択者（研究代表者）から結成された研究チームに対して「推奨研究プロジェクト」として学内の補助金が交付される制度があり（平成27年度推奨研究プロジェクト（特定）募集要項）、本学部教員の科研費採択者もこの制度を利用しており、2件採用されている（平成27年度推奨研究プロジェクト研究チーム一覧）。	平成27年度科研費採択者一覧（研究推進部ホームページ）、平成27年度推奨研究プロジェクト（特定）募集要項（研究推進部ホームページ）、平成27年度推奨研究プロジェクトチーム一覧（平成27年7月27日開催研究推進部委員会資料）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：8. 研究活動

経済学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	①研究活動方針の適切性 ②研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	論文の質のさらなる向上。	本学部教員の学外論文の本数。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	引き続き、質の高い論文の作成努力がなされている。	既出 1-E4 福岡大学公式ウェブサイト 研究者情報（国際論文誌掲載12件、10名）

商学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	<p>教員個人は、研究成果を学内外の学術雑誌にあるいは著書にして定期的に発表することを目標とする。更に、学部内外に教員の教育研究活動を広報するために、できる限り全員が、活動報告を『福岡大学商学論叢』誌上で公開し、また『福岡大学の研究者情報』の更新の頻度を増やす。教員の研究活動を活性化するための学部レベルでの達成目標は以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の学会・研究集会での講演を奨励する枠組みをつくる。 ・ 学部内での研究会を活性化させ、教員の研究交流を図る。 ・ 学部教育と大学院教育を有機的に連携させ、授業・業務の負担軽減を目指す。 ・ 学部独自の「個人研究費」を増額して、研究活動を促進させる。 ・ 研究時間の確保のためサバティカル制度等を検討する。 	<p>公表する教員の比率90%以上</p> <p>将来構想委員会で検討</p> <p>将来構想委員会で検討</p> <p>将来構想委員会で検討</p> <p>年25万円以上</p> <p>教授会及び将来構想委員会で検討</p>

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人研究予算について以下の改善を行った。 <ol style="list-style-type: none"> ① 年間23万円から25万円に増額した。 ② 単年度で処理をしていたものを、15万円まで次年度への繰り越しを認めることにした。（最大40万円） ③ 海外への出張旅費の個人枠からの支出については、年間13.8万円から20万円へと上限を拡大した。 ④ 支出を認めていなかった学会参加費を年2万円まで認めることにした。 	「予算委員会からの報告」 2014年6月18日商学部教授会資料

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：8. 研究活動

理学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究活動の質的な向上	学部全体の成果・実績の数と研究者ごとの実績

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各研究者の研究活動方針は、卒業論文・修士論文発表会などを通じて、各学科・専攻において研究内容の議論が行われている。また化学科においてはFD講演会「談話会」が、地球圏科学科では学科内3分野の「研究成果交流会」が行われ、学科内でその適切性が議論されている（既出 6-S4 16頁、17頁、19頁、20頁）。また、大学院各専攻での研究活動成果・実績については、各学会における原著論文発行、著書、総説、国内および国際会議発表、公的研究費報告書などにおいて、多数の実績が報告されている。	既出 6-S4 理学部・理学研究科年報2014（印刷原稿）

工学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
--------	----------------------

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> 著書・学術論文・学会発表等の件数増加 外部資金獲得件数および金額の増加 学外機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 著書・学術論文・学会発表等の件数 外部資金獲得件数・金額 受託・共同研究件数、委員会等委員就任件数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成26年度における研究業績は、著書・学術論文186件、学会発表等535件であり、学科により多少の差はあるが、教員（助教以上の教員数123名）1人当たりの件数は著書・学術論文が1.51件、学会発表等が4.35件となっている（8-T1 21-85頁）。また、平成26年度の科研費採択件数は新規・継続を含めて、基盤研究（B）2件、基盤研究（C）16件、若手研究（B）13件であり（8-T2 5-7頁）、その他の外部資金として、受託研究費48件・102,379,180円、研究助成寄付金37件・28,640,786円を獲得している（8-T3 20頁）。	8-T1 福岡大学工学集報, 第95号 8-T2 福岡大学学報, 第445号 8-T3 福岡大学学報, 第453号

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：8. 研究活動

医学部医学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	医学部医学科および看護学科、医学研究科は、研究の質的向上に取り組んでいる。研究活動方針の適切性。研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	質的向上は、最近の医学研究に関するガイドライン、利益相反マネージメントに沿ったかたちで、透明性を担保する方略の構築につとめる	質的向上の指標は、医学系研究に関するガイドライン、利益相反マネージメントをできる教員の確保になる。人的資源の確保。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	質的向上は、最近の医学研究に関するガイドライン、利益相反マネージメントに沿ったかたちで、透明性を担保するシステムの構築に努める。医学部医学科および看護学科、医学研究科、それに付随する基盤研究所、産学官連携研究機関等の教育研究組織は、福岡大学病院と筑紫病院の二つの教育病院をプラットフォームにしながら、恵まれた環境で研究活動が行われている。医学科の研究実績は、国際誌投稿、科学研究費、奨学寄付、共同研究、寄付連携講座講座等、外部資金獲得においては、学内トップをはしる。各講座を横断する総合研究室、医学情報センター、電子顕微鏡センター、RIセンター、アニマルセンターが医学部内に設置されている。医学部内には、基盤研究研究所として、先端分子医学研究所、てんかん分子病態研究所、膝島研究所に加え、平成26(2014)年からは心臓・血管研究所が新設された。産学官連携研究機関はライフ・イノベーション医学研究所として、新規臨床研究ガイドラインに沿った人事の活性、倫理委員会への対応を行っている。	

医学部看護学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	医学部医学科および看護学科、医学研究科は、研究の質的向上に取り組んでいる。研究活動方針の適切性。研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	質的向上は、最近の医学研究に関するガイドライン、利益相反マネージメントに沿ったかたちで、透明性を担保する方略の構築につとめる	質的向上の指標は、医学系研究に関するガイドライン、利益相反マネージメントをできる教員の確保になる。人的資源の確保。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	看護学科は、開設時より科学研究費補助金の申請を推進し80%以上を維持している。採択率は、平成21年度20%だったのが、平成24年度34.2%、平成25年度35%と徐々に上昇し、全国平均の30%を超えている。これは、組織的な取り組みがない中で、教員が自助努力し成し遂げたものである。平成25年度からは、外部資金獲得（科学研究費補助金研究、木村看護教育振興財団、安田記念医学財団、勇美財団研究助成など）に向けての学科独自の取り組みを、FD委員会、研究推進委員会を巻き込んで企画し、研究中の支援や成果の発表に向けて支援する活動方針を推進している。平成26年度からは外部資金獲得のための情報を学科内メールや掲示板、よく見る場所等に冊子を置くなど積極的に情報を流している。	8-MN1 福岡大学要覧2015 既出3-MN4 福岡大学医学部看護学科FD活動報告書2号 (P81~83)

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：8. 研究活動

薬学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究の質を上げるためには、2、3年次学部学生を対象として、各教室の研究内容の紹介や研究室の開放を行い、早期に学生の研究への理解と関心を高め、毎年の大学院進学者数を一定数に維持する。また、大学・学部内での共同研究や研究評価体制の確立と他の研究機関との交流の推進を図り、国内的・国際的にも評価される研究課題の策定、さらに地域社会との連携を深め研究シーズの探索を推進する。さらに、女性研究者の確保を推進する。	学部の年間の公的資金総申請数および総獲得額、学部学生からの大学院進学者数、年間英文論文投稿・受理数、学部内シンポジウム形式の討論会開催数などを指標とする。さらに、薬学部内および他学部との共同研究の推進状況や女性教育研究職の確保を含めて、ホームページによる情報公開の状況を指標とする。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学部の年間の公的資金総申請数および総獲得額、年間英文論文投稿・受理数はほぼ横ばい状況で、今後の推移を見守る状況である。学部内シンポジウム形式の討論会開催に関しては、薬学研究科と協力して、大学院生による研究成果中間発表会の開催を学部学生にも公開する形式での開催を始め、各教室間での共同研究の切っ掛けとなることを、さらに「薬学部若手スタッフと学部学生による集い」の開催や薬学会関連のシンポジウム開催情報を学生にも周知し、参加を呼びかけ、学部学生からの大学院進学者の増加を期待している。他学部等との共同研究の推進状況に関しては、毎年度発行する薬学集報への記載を計画している。女性教育研究職に関しては、本年度は講師と助教各1名の採用された。	8-P1 大学院 研究成果中間発表会開催案内状 8-P2 第37回日本薬学会九州支部コロキウム開催ポスター 8-P3 研究推進部委員会報告書 No.4 資料1,

スポーツ科学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> 研究活動方針の適切性に係わる組織的な取り組みを実施する。 研究活動成果・実績について最新情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究活動に係わる組織的な取り組み実績 研究活動成果・実績の発信実績

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	学部全体での統一した研究活動方針は明確化されていないが、学部内共同研究チームによる取り組みがなされている。研究活動成果および実績について、福岡大学スポーツ科学研究に1年に1度の掲載に留まり、最新情報の発信の取り組みはなされていない。	既出3-G10 平成27年度教授会（5月13日）資料34

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：8. 研究活動

人文科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	現行の教育組織を維持するならば、教員の大学院担当比重を増やすか、補助職員(助教等)を採用する。また教員の博士学位取得を推進させる。	教員授業担当比重～大学院：学部＝6：4 程度 博士学位取得者の全教員数に対する比率40%

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成26年度と特に変更はない。研究科として統一された研究方法や成果報告の媒体はない。各教員の所属する学会等の専門誌は勿論、学部紀要(人文論叢)や、各専攻毎での個人及び共同研究(領域別研究、等)として成果の公表は行われている。また、競争的研究費獲得では、学内(推奨研究プロジェクト研究チーム)2件、科研(基盤研究B：1件、基盤研究C：11件、挑戦的萌芽研究1件)と若手教員を中心に活躍がみられる。なお、平成27年度における本研究科教員中の博士学位所持者の割合は43%と昨年度より増加している。	

法学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性 研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究成果の積極的な公表をさらに拡大させること。	研究成果の水準を数値化することには大きな困難が伴うが、公表された論文数など一定の量的な実績。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	本学の法学論叢への定期的な論文掲載に加え、学会誌等への論文・判例批評等の投稿も継続的に行われており、研究活動は順調に推移している。	8-JD 45 福岡大学研究者情報（ホームページ）「研究業績」

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：8. 研究活動

経済学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	引き続き、研究成果の質的向上、量的拡張に向けて努めていきたい。	教員による、5年間の論文の質と量

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	引き続き、質の高い論文の作成努力がなされている。	8-ED10 福岡大学公式ウェブサイト 研究者情報

商学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1) 研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	商学研究科内および他研究科、他大学と共同研究をよりいっそう進め、研究の質的向上に取り組む。	研究成果としての共同論文、学術誌

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	他大学(海外)と共同研究を進め、研究の質的向上を図るべく検討を進めている。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：8. 研究活動

理学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	学生の研究科内研究発表の複数化	学生の発表回数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	各専攻において、学生の修士論文研究の中間報告会を公開で開催している。	8-SD1 応用数学専攻大学院 中間発表案内 8-SD2 化学専攻中間報告会 案内 8-SD3 地球圏科学専攻中間 報告会案内

工学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	工学研究科全体の研究成果及び外部資金獲得額の公表

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・著書・学術論文・学会発表等の件数増加 ・外部資金獲得件数および金額の増加 ・学外機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・著書・学術論文・学会発表等の件数 ・外部資金獲得件数・金額 ・受託・共同研究件数、委員会等委員就任件数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	平成26年度における研究業績は、著書・学術論文186件、学会発表等535件であり、学科により多少の差はあるが、教員（助教以上の教員数123名）1人当たりの件数は著書・学術論文が1.51件、学会発表等が4.35件となっている（既出3-TD2 21-85頁）。また、平成26年度の科研費採択件数は新規・継続を含めて、基盤研究(B)2件、基盤研究(C)16件、若手研究(B)13件であり（8-TD1 5-7頁）、その他の外部資金として、受託研究費48件・102,379,180円、研究助成寄付金37件・28,640,786円を獲得している（8-TD2 20頁）。	既出3-TD2 福岡大学工学集 報 第95号 8-TD1 福岡大学学報 第445 号 8-TD2 福岡大学学報 第453 号

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：8. 研究活動

医学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性、研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	異分野間交流・共同研究の促進	教育研究支援センター設置等の検討

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	医学研究科内の異なる専攻間の交流や共同研究に関しては従来に比し大きな変化はないが、現在、産学官連携コーディネータの仲介などを介して、医学、工学、理学などの異分野間の交流を深める機会を設け、生命科学全般における融合統合研究の推進を図っている。(8-MD1, 8-MD2)	8-MD1 システムバイオロジー懇談会および資料 8-MD2 【開催報告】「福岡大学 新春産学官技術交流会 2015」

薬学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性 研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	効率的で無理のない研究活動方針が策定されている。	新たな研究体制

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	薬学教育6年制と伴って、学部教育の過密化、大学院生の激減などで研究活動の進展が以前より困難となっている。個々の教員は、それぞれ研究方法を工夫し、一定の成果を収めているが、より組織的な研究活動支援を考える必要がある。	8-P1 福岡大学薬学集報(書籍およびWeb上) 8-P2 福岡大学研究者情報DB(Web) 8-P3 福岡大学薬学部研究室紹介サイト 既出4-3-P1 福岡大学 自己点検・評価報告書(PDF版)

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：8. 研究活動

スポーツ健康科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性, 研究活動成果・実績の状況

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	研究科全体での研究活動方針を検討する。	毎年、年度末に研究科教員全員の研究業績一覧を掲載している。この一覧をもって判断する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	研究科全体としての組織的な研究活動方針は定められておらず、研究室単位、教員単位でのみ行われている。また、研究活動成果は毎年、学部紀要に当該年度の研究業績一覧が掲載されている。この掲載に関しては今後も継続して実施していく予定である。	既出3-GD3 スポーツ科学部研究紀要（福岡大学スポーツ科学研究）

法曹実務研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(1)	(1)研究の質的向上に取り組んでいるか。
評価の視点	研究活動方針の適切性

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(1)	実務法曹の更なる能力向上のための研究体制について検討し、具体的な取り組みを行うこと。	具体的な研究テーマの設定、および領域別研究チームや科研費などの採択状況。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(1)	実務法曹として必要な能力を修得した学生の養成を使命とする法科大学院の教員にとって、実務での影響や具体的事件への応用を考慮した研究として、「法科大学院判例等研究」（「近時の重要判例に関する包括的研究」）のために「領域別研究チーム」の設置申請が認められ、3年間の研究が開始された。	8-1法科1 平成27年度領域別研究チーム設置申請書、8-法科2 教授会（平成27年2月4日）資料⑨（平成27年度領域別研究チーム設置審査結果について）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

人文学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	教育研究の成果の社会への還元を継続する	社会貢献に関する具体的な取り組み数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	教員各人は研究に基づく社会的貢献を、国、県、市の各レベルの各種審議会委員や、講演、研修会講師など多彩に展開しているものの、それをどう評価、検討していくのかのノウハウが蓄積されておらず、数の上での実態評価が難しい。適切な数値目標の指標の検討を急ぐべきである。	

法学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	①教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、②学外組織との連携協力による教育研究の推進、③地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	地域社会・外部組織と協力し、地域社会等に研究成果を還元できるようにする。	地域社会・外部組織との連携・協力。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	福岡大学法学部授業科目として、福岡県警職員と学部教員によって平成28年度に「特別講義（警察活動の実際と法理論）」（2単位）、平成29年度以降は、恒常的な科目として、「警察活動の理論と実務」（2単位）を開講することになった。	平成27年9月2日教授会資料、同教授会議事録

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

経済学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	①教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動 ②学外組織との連携協力による教育研究の推進

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	現在の社会連携・社会貢献活動を引き続き維持していく。	本学公式ウェブサイト 都市空間情報行動研究所（FQBIC）に掲載される実績。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	引き続き、社会連携・社会貢献活動が行われている。	既出 1-E4 福岡大学公式ウェブサイト 都市空間情報行動研究所（FQBIC）

商学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	①教育研究の成果を基にした社会貢献活動、②学外組織との連携協力による教育研究の推進、③地域との交流の推進

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	教育研究成果を社会に還元する活動の継続	高校生向け講義数、学外との連携プログラム数、創業交流塾参加者数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	平成26年度も前年同様の活動を継続している。①大学の講義内容に対する高校生の関心を高めるため、入学センター経由で模擬講義、高大連携事業による開講を行っている。商学部の平成26年度における模擬講義は23回、高大連携科目は5科目であった。研究成果の市民への還元活動として、商学部教員は、公共団体の審査会等の委員、各種団体での講演、執筆活動等において貢献している。②全学の組織・予算を利用して学外組織との連携による教育に取り組んでいる。「福岡大学教育推進経費」を利用した企画として平成26年度には天神ゼミ、書籍フェアが実施された。天神ゼミでは株式会社共立メンテナンスと連携し、「理想の学生寮を企画しよう」という課題に挑戦した。書籍フェアでは大手書店から協力を得て「福大生が大学で出会った本 厳選BEST20」の売り場を設置した。福岡大学地域ネット推進センターを經由して「書く力をきたえるプログラム」が平成19年度から実施されている。平成26年度は3回のプロジェクトを行い、合計89人の大学生が346人の中高生と交流した。エクステンションセンターを經由して「地域活性化支援塾」が平成22年度から実施されている。平成26年度は博多区の美野島商店街で活動を展開した。その他、個別のゼミナールによる活動として「創業体験プログラム」、「アビスパ応援プロジェクト」実施、国分株式会社と国土交通省が実施する産学連携プログラムへの参加等、外部の組織と連携した教育を実施している。③商学部棟が社会人と大学生・教員の交流の場になることを目指し、平成25年度から創業交流塾を実施している。平成26年度は3回実施し、それぞれ70人、50人、50人が参加した。	①9-C1入学センター内部資料、9-C2商学論叢 ②③9-C3学部通信2014-2015 9-C4国分社報2014.10月号

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

理学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を元にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	社会貢献活動、教育研究活動、国際交流活動の充実	活動実績

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	一般向けの論文および著書、行政報告書が4件発行されている。高校生を対象とした模擬講義の回数は25件である。また一般対象の集会での発表回数は4件である。一般対象のイベント活動（講師として参加）の回数は12件である。その他に福岡大学市民カレッジの公開講座を4件開催している。物理科学科では、応用物理学会と連携して、子どもだけでなく小中学校教員や一般を対象とした理科教室や、遠隔地への出張理科教室を企画、実行している（既出 6-S4 30頁～32頁、9-S1）。	既出 6-S4 理学部・理学研究科年報2014（印刷原稿） 9-S1 地域ネット推進センターホームページ

工学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	引き続き教育研究の成果を社会に還元していく。	地域・社会の人々の満足度

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	室見川シロウオ産卵床造成プロジェクトなどの地域支援活動、飯塚市水質環境改善による活性化事業などの地域連携活動、一般市民向けの防災講義などを行ってきており、平成27年度には本学に福岡市と連携した地域交流サロンを開設している。	9-T1 地域交流サロン開設プログラム 9-T2 「大学の地域貢献度に関する全国調査2015」（日本経済新聞社）

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

医学部医学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	医学部の教育研究の成果を適切に社会に還元している。

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	医師の派遣など積極的な支援ができる環境を整備する。看護師の継続教育を視野に入れたプログラムの構築。	医師の派遣、看護師の継続教育を視野に入れたプログラムの立案者の確保、および、現在の自治体からの寄付研究講座の継続である。看護師の継続教育を視野に入れたプログラムが構築されていること。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	医師の派遣など積極的な支援ができる環境を整備する。看護師の継続教育を視野に入れたプログラムの構築。医学部は教育研究の成果を、公開講座・シンポジウムの開催、社会人教育、生涯学習等で社会に還元している。医療過疎地域に対する医師派遣は、典型的な医師育成の教育成果と考えることができる。エクステンションセンターを利用した様々な試みは、正規の学籍を有しない社会一般の人々に対しての生涯学習に貢献している。医学部は福岡県との提携による特別寄付講座「地域・救急医療管理学講座」を開設し、医療過疎地域への医師の派遣、また、病院を中心として多くの市民公開講座を大学メディカルホールで絶えず開催している。医学部カンファレンスは社会人医師が自由に参加できる形態を取っている。企業・民間とのコラボにより寄付研究連携の講座を10講座程度有している。	

医学部看護学科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	医学部の教育研究の成果を適切に社会に還元している。

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	医師の派遣など積極的な支援ができる環境を整備する。看護師の継続教育を視野に入れたプログラムの構築。	医師の派遣、看護師の継続教育を視野に入れたプログラムの立案者の確保、および、現在の自治体からの寄付研究講座の継続である。看護師の継続教育を視野に入れたプログラムが構築されていること。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	社会ニーズに応えられる高度実践看護師の育成プログラムはワーキンググループを中心に大学院教育において申請準備中である。ジェネラリストとしての看護師の輩出は25年度に続き26年度看護師・保健師国家試験合格率100%であり、順調に社会に送り出すことが出来ている。また、メンタルサポート研究会という学生のサークルを通して高齢者ケアサポート事業を行っている。平成21年にスタートし、大学が所在する福岡市城南区七隈校区・金山校区の独居世帯での孤独死防止をするために訪問活動を行っている。年2回七隈地区で高齢者サロン活動で健康教室サロンも行っている。現在学生8名が2週間に1回、高齢者宅5名に訪問継続している。平成27年10月から高齢者2名増加することが決まっている。	既出1-MN6 平成26年度医学部年報 9-MN1 看護学科大学院専攻会議録 9-MN2 平成26年5月地域ほっとブック～まちづくり最前線！福岡大学～

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

薬学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動 地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	教育研究成果の社会への周知	WEBや刊行物への掲載

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	<p>エクステンションセンター主催（福岡市薬剤師会後援）の社会人再教育・継続教育支援事業として、年2回（5月と10月）の福岡大学市民カレッジ（薬学部卒業後教育講座）を継続して開講しており、本年度は「薬学教育・研究の最前線」をメインテーマとした講演を企画し、薬剤師の生涯研修や生涯教育・生涯学習等薬剤師の資質向上への取り組みを支援している。</p> <p>地域交流に関しては、エクステンションセンター主催の大学開放推進事業として、一般市民を対象として開講していた福岡大学キャンパスツアー「キャンパス見学と研究者と語る福大サロン」を「福岡大学を知る」シリーズに講座名の変更を行い、開講曜日や時間、内容の見直しを行い、各学部持ち回りで実施している。本年度は本学部教員が講師を務め、「薬の危険な飲み合わせ・食べ合わせ」について、一般市民に対して研究内容をわかりやすく説明し、大学への理解や地域交流を深めている。</p>	9-P1 第45回アンケート結果 9-P2 第46回アンケート結果 9-P3 H27-福岡大学を知るシリーズ-アンケート集計結果

スポーツ科学部

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	1. 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動 2. 学外組織との連携協力による教育研究活動の推進 3. 地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	<p>1. 各種講座の安定的な開講と受講者数の増加</p> <p>2. 学生サポーター制度登録者数の増加</p> <p>3. 高大連携事業の具体的な取り組み</p> <p>4. 地域貢献による学部の評価システムの構築</p>	<p>1. 講座数15講座以上と1講座につき受講者数30～40名を安定確保</p> <p>2. 登録者数20名の確保</p> <p>3. 高等学校を対象とした講座5科目の継続。協定校の福岡県立早良高等学校を対象とした講座を2～3回の実施。同校に教職課程履修者30名程度の教育実習事前教育活動の場として協力を要請。</p> <p>4. 地域、連携校による貢献度のアンケート評価</p>

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	<p>1. 各種講座の安定的な開講と受講者数の増加 平成25年度、エクステンションセンター事業である福岡大学市民カレッジの参画で開講した講座は15講座であった。平成26年度は、新規にキッズレスリング教室が加わり16講座を開講する予定であったが、2つの講座で募集人員が最少開講人数を満たさなかったため14講座の開講となった。全体の受講者数に関しては709人で平成24年度の受講者数765人から比較すると56人減少した。</p> <p>2. 学生サポーター制度登録者数の増加 平成25年度の学生サポーター登録者数13人であったが、平成26年度の登録者数は2人と到達目標の20人には程遠く大きく減少した。この大幅に減少した理由としては、学生サポーター制度自体、自主性を重んじる制度のため強制ができないということや本学部の学生のほとんどが部活動に所属しているということが挙げられる。今後、学生サポーター制度登録への呼びかけは継続していくつもりではあるが、登録をしていなくても部活動単位でエクステンションセンター事業である福岡大学市民カレッジの講座や地域ネット推進センター事業の授業支援活動、地域事業のボランティア活動など本学部の学生は積極的に参加をしていることから総合的な地域貢献という視点で指導をしていきたい。</p> <p>3. 高大連携事業の具体的な取り組み 関連高等学校（大濠高等学校・若葉高等学校）を対象に講座3科目を実施したが、到達目標である講座5科目の実施にまでは至らなかった。 協定校である福岡県立早良高等学校との連携事業では、講座4回を実施し、到達目標の2～3回の実施を満たしている。また、教職課程履修者30人程度の教育実習事前教育活動の場として要請は、30人程度の受け入れは高校側の業務に支障が出てくるため受け入れることができないとの回答であった。しかし、その変更案として平成27年度から母校外教育実習生の受け入れを承諾していただいた。</p> <p>4. 地域貢献による学部の評価システムの構築 地域貢献による学部の評価システムの構築を目指した「地域、連携校による貢献度のアンケート評価」の実施については、連携校との実施はできていないが、エクステンションセンター事業である福岡大学市民カレッジでは14講座を対象に実施した。</p>	9-G1 平成26年度エクステンション事業「福岡大学市民カレッジ」講座実績報告 9-G2 平成26年度学生サポーター活動報告 9-G3 平成27年度教授会議議事録（7月1日）資料7 9-G4 平成26年度地域連携活動報告 9-G5 附属大濠高等学校模擬講義について（2年生総合的な学習「福大講座」） 9-G6 平成26年度附属若葉高等学校への出張講義について《1年生対象》 9-G7 福岡大学における模擬講義について《2年生対象》 9-G8 早良高等学校における模擬授業および授業見学 9-G9 福岡県立早良高等学校との高大連携における提供授業実施の報告 9-G10 2015教育実習校訪問担当者（案） 9-G11 平成26年度福岡大学市民カレッジにおける各キッズスポーツ教室のアンケート結果

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

人文科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	各専攻における活動の促進・具体化を図る。	大学案内や本研究科HP等において各専攻の社会サービスや地域貢献項目を設け、それぞれの活動内容を紹介・可視化する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	平成26年度より大きな展開なし。	

法学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果をもとにした社会へのサービス活動。学外組織との連携協力による教育研究の推進。地域交流・国際交流事業への積極的参加。

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	本研究科として可能な社会貢献・社会連携の仕組みを作り、それを実施していく。	本研究科による社会貢献・社会連携制度の設置

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	社会貢献意識を維持しながら、限られた研究環境の中で、多くの教員が個々の研究成果を活用して社会活動に参加している。	9-JD 46 福岡大学研究者情報（ホームページ）「社会活動」

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

経済学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	研究科として組織的に社会連携活動を行っていくよう、制度改善を検討していく。	通常委員会議事録

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	現状維持に努めている。	既出1-ED4 経済学研究科公式ウェブサイト

商学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果をもとにした社会への貢献、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的な参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	商学研究科としていかなる組織的な社会貢献・連携が可能か検討していくこと。	商学研究科における社会貢献・連携制度の構築

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	商学研究科では、各教員が教育研究の成果をもとに各種社会貢献をしている。また、学外組織（海外）との連携協力による教育研究の推進、国際交流事業への取組を検討している。	

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

理学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	助成金への申請数の増加	助成金申請数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	理学部・理学研究科教員の科学研究費補助金への申請件数が増加した。 平成27年度自己点検・評価の結果、中項目(2)に関する「到達目標」と「指標」は設定した「評価の視点」にそぐわないと判断し、変更を決定した。	9-SD1 理学部教授会議事録、資料（平成26年11月18日）

工学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動、学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極的参加。研究推進部による研究シーズ公開。広報部によるプレスリリースなど。

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	地域への教育支援、地域交流事業への参画回数を増やす。成果還元の研究件数を増やす。	教育支援件数、共同研究件数、交流事業回数で評価する。

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	資源循環・環境工学専攻では北九州市と共催で、北九市民を対象に「福岡大学エコスクール」といった環境講座を開催し、座学のみならず研究施設や研究成果を公開して、様々な環境の取り組み現場の見学を行っている（9-TD1）。 また、自治体へ政策提言が行える人材を育成することを目的とした「グループ530勉強会」を開催し、廃棄物関連研究者、技術者及び管理者のレベルアップを図る取り組みも行っている。	9-TD1 環境セミナー2015福岡大学「エコスクール」案内

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

医学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	学外組織との連携協力による教育研究の推進、地域交流・国際交流事業への積極参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	研究成果の社会還元方法の改善	研究成果の一般公開、アウトリーチ活動の促進

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	地域交流としては、福岡四大学共同研究プロジェクト「未来医療人材育成事業」、七隈沿線三大学連携事業が進行中である。前者に関しては、平成27年度に大学院医学研究科の臨床研究科学専攻科内に「医療イノベーションコース」が新設された（9-MD1, 既出1-MD1, 1-MD2, 1-MD3）。後者に関しては、大学院共通科目講義の相互開放、学位審査員の相互派遣、共通開講セミナー「食と栄養と健康」が継続して行われている（9-MD3）。共通開講セミナーは一般公開セミナーであり、これにアウトリーチ活動の一環として、福岡大学医学研究科の若手教員を講師として派遣している（9-MD3）。国際交流としては、韓国啓明大学との国際交流を検討中である。研究成果の一般への公開方法については、未だ検討中である（9-MD4）。	9-MD1 起案書（文部科学省 平成25年度研究拠点形成日等補助金「先進的医療イノベーション人材養成事業（未来医療研究人材養成拠点形成事業）」の事業実施について） 9-MD2 地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会 教育WG記録 9-MD3 2015年度 地下鉄七隈線沿線三大学共同開講授業科目「食と栄養と健康～ダイエットを科学する～」シラバス 9-MD4 啓明大学大学院と本学大学院の学术交流について 既出1-MD1 平成27年度 大学院入学試験要項 医学研究科 博士課程 既出1-MD2 平成27年度 大学院医学研究科博士課程シラバス 既出1-MD3 福岡大学大学院学則一部改正について

薬学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動 学外組織との連携協力による教育研究の推進 地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	教育研究の成果が、学外組織との連携事業の推進や医療現場での技術革新等に寄与している。	学外組織との連携事業への参画

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	学会、研修会等への参加、研究論文の投稿、特許出願その他を通して、積極的に研究成果を公表している。さらに社会貢献できる研究体制や公表形態を検討している。	既出8-P1 既出8-P2

平成27年度 自己点検・評価シート

大項目（評価の基準）：9. 社会連携・社会貢献

スポーツ健康科学研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動, 学外組織との連携協力による教育研究の推進, 地域交流・国際交流事業への積極的参加

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	現在も適切に行われており, 現状を維持するように努める。	連携協定を結んだ自治体数

III. 到達目標の進捗状況

	進捗状況	根拠資料
中項目(2)	地域住民を対象としたメタボリックシンドローム改善教室、福岡県那珂川町との包括協定による認知症予防事業、福岡県主催の健康展に、毎年、健康・体力測定コーナーを設けるなど地方自治体と連携した社会貢献を行っている。このような活動を今後も継続していく予定である。	9-GD1 事業計画進捗状況報告書（H27・9・7通常委員会で状況報告） 9-GD2 那珂川町広報誌

法曹実務研究科

I. 中項目（点検・評価項目）・評価の視点

中項目(2)	(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動

II. 到達目標・指標（平成30年度までの到達目標及び指標）

	平成30年度までの「到達目標」	左記到達目標の「指標」
中項目(2)	福岡リーガルクリニックセンターおよび本法科大学院出身の弁護士との連携の継続および強化。	出張無料法律相談会の実績（開催地域、回数など）。